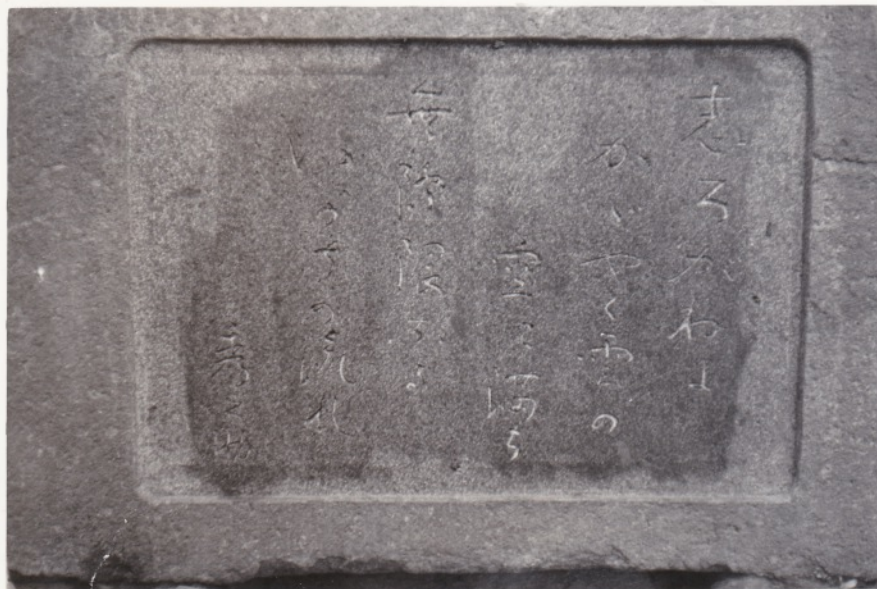


山



山田耕筈記念碑

所在地 東京都あきる野市菅生七三 西多摩霊園 B区

赤とんぼ

夕焼小焼の
赤とんぼは
負われて見たのは
山の煙の日は
桑の實を摘んだは
小籠に摘んだは
まぼろしかは
十五で姉やは
嫁に行き
お里のたよりも
絶えはた
夕焼小焼の
赤とんぼは
とまつて
竿の先

露風

副碑

山田耕筈碑

左側面

明治大昭和の三に亘つてわが国楽界に不滅の章を築かれた山田耕
先生の名は地球に人類の存する限り永遠に傳へられることであらう。
この碑もまた先生の歌曲を慕ひてやまぬ多くの人々の自然の歌声の集とし
て高くも生れ出たものである「音楽を大衆に」は先生のモットーでもあった。
この碑を作られた方々の努力を多とする

裏面

昭和四十二年七月三日建立

山田 真梨子
山田耕筈建立世話人会
西多摩霊園
許村松善豊

碑陰

文字なし

赤とんぼ

並譜

線

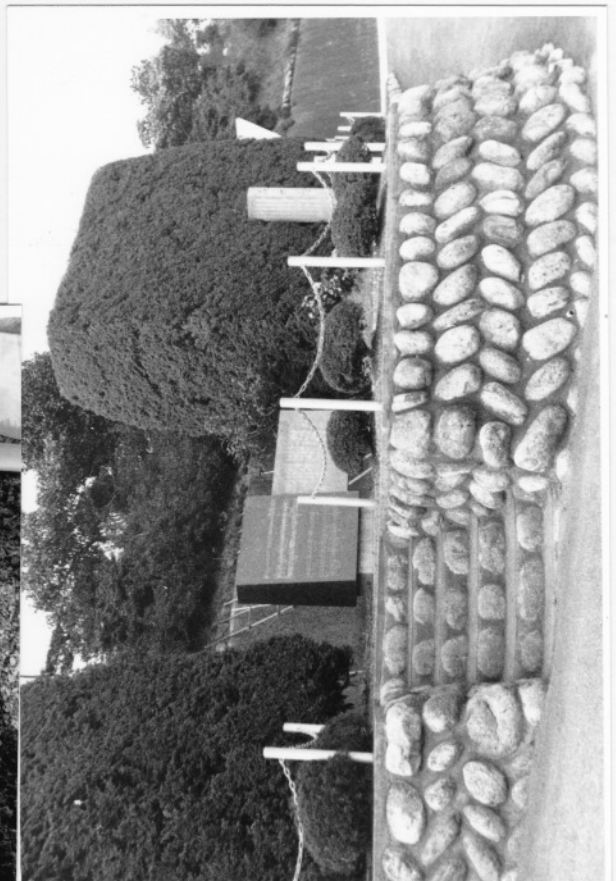
五

碑陰

独り居は他し一人居もなほ寂し

さびしければこそ相抱くなれ

耕筈



山田耕筰記念碑・三木露風詩碑

所在地 東京都あきる野市菅生 721 西多摩霊園 B区

赤とんぼ
夕焼小焼の
赤とんぼ
負われて見たのは
いつの日か
山の畑の
桑の實を
小籠に摘んだは
まぼろしか
十五で姐やは
嫁に行き
お里のたよりも
絶えはてた
夕焼小焼の
赤とんぼ
とまっているよ
竿の先

露風

碑陰

文字なし

副碑裏面

昭和四十一年七月三日建立 山田真梨子

山田耕筰碑建立世話会

西多摩霊園

設計 村松善豊

碑陰（縦書き）

赤とんぼ

独り居は侘し二人居もなほ寂し

五線譜（横書き）

さびしければこそ相抱くなれ

耕筰

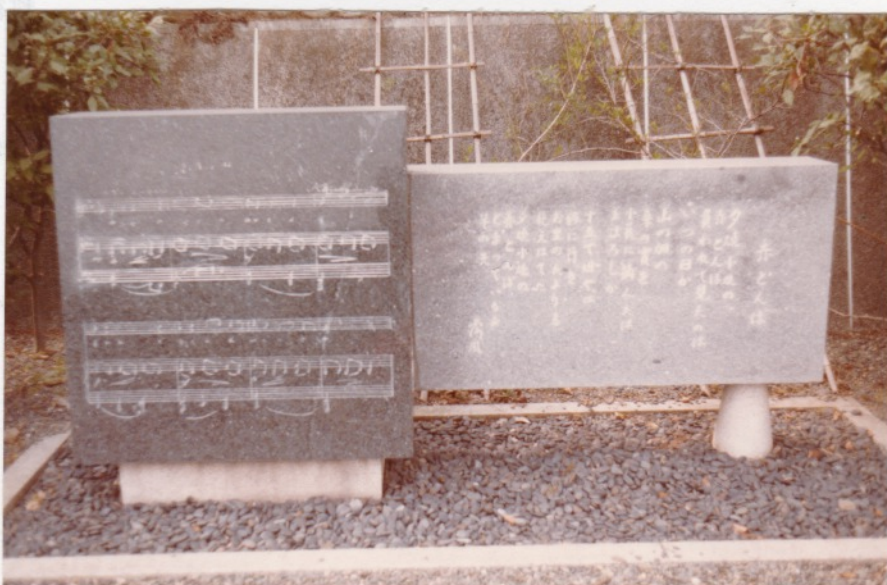
副碑

山田耕筰碑

左側面 明治大正昭和の三代に亘ってわが国洋楽界に不滅の金字塔を築かれた山田耕筰先生の名声は地球に人類の存する限り永遠に語り継がれることであろう。

この碑もまた先生の歌曲を愛慕してやまぬ多くの人々の自然の歌声の結果として奇しくも生れ出たものである「音楽を大衆に」は先生のモットーでもあった。

この碑を作られた方々の努力を多とする。





山田耕筰記念碑

所在地 東京都あきるの市菅生 西多摩霊園 I (あい) 区

からたちの花
山田耕筰作曲

五 線 譜 (以上一面に横書き) (下記の歌詞は残り三面に縦書き)

からたちの
花が咲いたよ
白い白い
花が咲いたよ
からたちの
とげはいたいよ
青い青い
針のとげだよ

からたちは
畑の垣根よ
いつもいつも
とおる道だよ
からたちも
秋はみのるよ
まろいまろい
金のたまだよ

からたちの
そばでないたよ
みんなみんな
やさしかったよ
からたちの
花が咲いたよ
白い白い
花が咲いたよ

台石 (横書き)

贈 西多摩霊園石材業組合

山田耕筰記念碑

所在地 東京都あきる野市菅生 西多摩霊園 I(老)区

からたちの花

山田耕筰作曲

五線譜

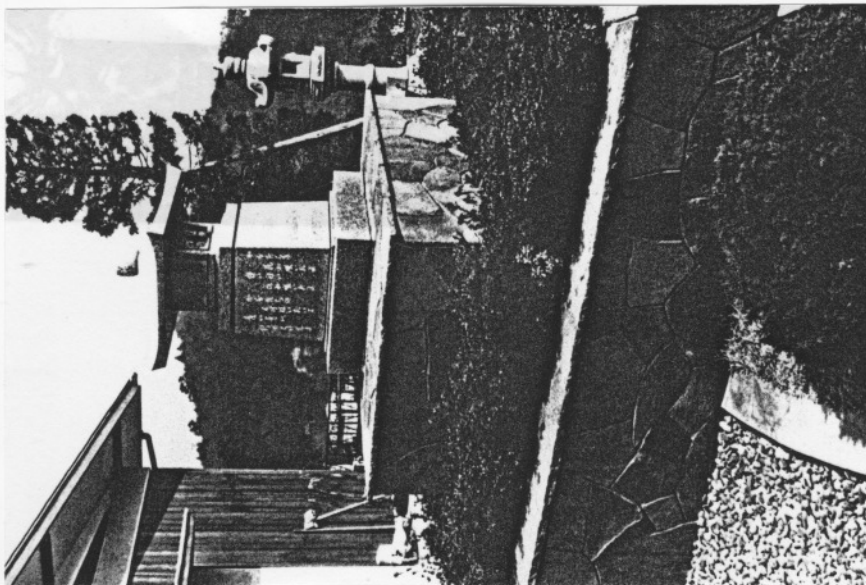
からたちの
花が咲いたよ
白い白い
花が咲いたよ
からたちの
とげはいたいよ
青い青い
針のとげだよ

からたちは
畑の垣根よ
いつもいつも
とおる道だよ
からたちも
秋はみのるよ
まるいまるい
金のたまごだよ

からたちの
そばでないたよ
みんなみんな
やさしかったよ
からたちの
花が咲いたよ
白い白い
花が咲いたよ

石 贈
台

西多摩霊園石材業組合



略歴

山田耕筰 明治十九年六月九日 東京本郷森川町に生まれる 東京音楽学校卒
昭和四十年十二月二十九日歿す 享年七十九歳 法名 響流院釋耕筰 墓は東京都あき
る野市菅生七三 西多摩霊園にある

山田耕筰記念碑

所在地 東京都あきる野市菅生 西多摩霊園内 Ⅰ区

山田耕筰

山田耕筰之像

の銅像

像の裏側

1982

Akihiko Crokawa

台石右側面

昭和五十七年七月十日 製作者 黒川晃彦

台座石裏面

山田耕筰年譜

明治19年6月9日 東京都文京区本郷

森川町9番地に生る

大正4年(29才) 自作の歌曲ピアノ曲

を初演 東京フィラルハーモニー管弦

楽団を組織し日本最初の交響楽定期

演奏会を催し交響楽運動の基礎を

つくる

昭和2年(41才) 「童謡百曲集」を作曲

出版

昭和17年(56才) 日本芸術院会員に

推挙さる

昭和31年(70才) 文化勲章を授与さる

昭和40年(79才) 12月29日 世田谷区

成城町の自宅にて永眠 贈従三位

銀盃一組並に祭料下賜

法名「響流院釋耕筰」

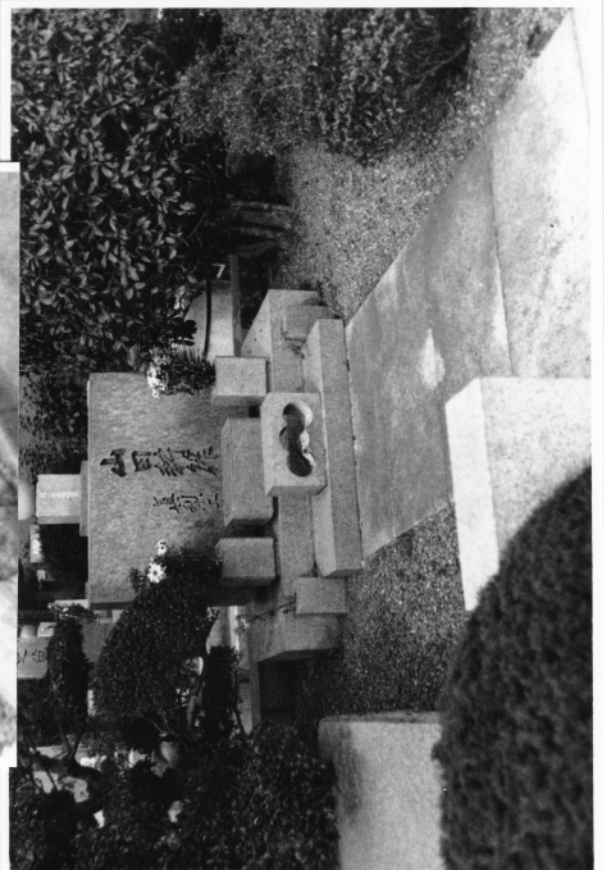
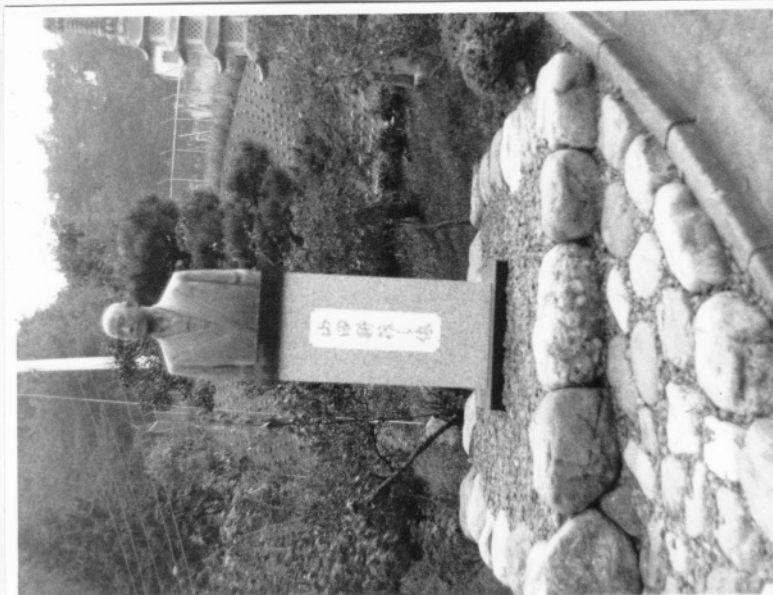
昭和41年1月11日 築地本願寺において

楽壇葬(葬儀委員長堀内敬三)執行

される

7月3日 西多摩霊園に 墓地 並に

「赤い心」記念碑竣工除幕式を挙行



山田耕筰記念碑

所在地 東京都あきる野市菅生 西多摩霊園内 I 区

山田耕筰

山田耕筰之像

の銅像

像の裏側（横書き）

1982

Akihiko Crokawa

台座石右側面

昭和五十七年七月十日 製作者 黒川晃彦

台座石裏面（横書き）

山田耕筰年譜

明治 19 年 6 月 9 日 東京都文京区本郷

森川町 9 番地に生る

大正 4 年 (29 才) 自作の歌曲ピアノ曲

を初演 東京フィルハーモニー管弦

楽団を組織し日本最初の交響楽定期

演奏会を催し交響楽運動の基礎を

つくる

昭和 2 年 (41 才) 「童謡百曲集」を作曲

出版

昭和 17 年 (56 才) 日本芸術院会員に

推挙さる

昭和 31 年 (70 才) 文化勲章を授与さる

昭和 40 年 (79 才) 12 月 29 日 世田谷区

成城町の自宅にて永眠 贈従三位

銀杯一組並に祭葬料下賜

法名「響流院釋耕筰」

昭和 41 年 1 月 11 日 築地本願寺において

楽壇葬（葬儀委員長堀内敬三）執行

される

7 月 3 日 西多摩霊園に 墓地 並に

「赤とんぼ」記念碑竣工除幕式を挙行

（注）東京音楽学校卒



山田耕作年譜

昭和十三年

(おまけ) 山田耕作年譜



山田耕作年譜

昭和十三年

昭和十三年

山田孝雄句碑

所在地 宮城県仙台市青葉区青葉城址本丸跡 護国神社横 遷安前

天地の

今わかる、や

初 日 影

孝 雄

碑陰

山田孝雄先生 学博く徳高く国
語を説き古道を極めてその名世に
あまねし 仙台市在住前後二十余
年 昭和三十三年この地において
生を終へらる その恩に浴せる者
全国各地より志を寄せ記念の碑を
建て先生自筆の連歌発句を刻みて
長く学徳をしのぶよすがとす

昭和四十二年七月

山田孝雄先生記念碑建設期成会

東七 平石材店



山田孝雄句碑

所在地 宮城県仙台市青葉区 青葉城址 本丸跡 護国神社横 浦安宮前

天 地 の

今 わ か るゝ や

初 日 影

孝 雄

碑陰

山田孝雄先生 学博く徳高く国語を説き古道を極めてその名世にあまねし 仙台市在住前後二十余年 昭和三十三年この地において年を終へらる その恩に浴せる者全国各地より志を寄せ記念の碑を建て先生自筆の連歌発句を刻みて長く学徳をしのぶよすがとす

昭和四十二年七月

山田孝雄先生記念碑建設期成会

東七 平石材店

略歴

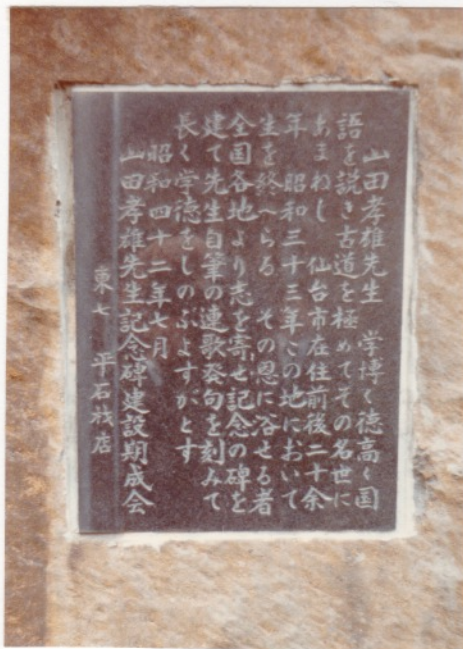
山田孝雄(よしお) 明治6年5月10日 富山市に生まれる 富山中学中退 検定試験合格 昭和33年11月20日歿す 享年85歳 墓は富山市五艘長慶寺墓地にある



山

雨

天



山田孝雄歌碑

所在地 富山県富山市新桜町七五 市役所別館 食堂裏

百千度くりかへしても

讀毎にこと新なり

古之典 孝雄

碑陰

山田孝雄博士略歴

博士は明治六年富山市総曲輪に生る。後精到を極めし獨學を重ねて、わが國國語學界の泰斗となれり。東北大學教授、神宮皇學館大學長、貴族院議員、國史編修院長等々を歴任し、終戦後には阿部次郎企画の日本文化研究所の監理者として再び仙台に招待され、その後文化勲章を授けられ、富山市名誉市民に推され、昭和三年、享年八十四才にして、仙台にて逝去す。博士の著書は日本文法論を初め百二十余部に及ぶ。

昭和三十五年十二月

東北大學名誉教授 小宮豊隆書

山田孝雄博士顕彰会建之

略歴

山田孝雄（まこ）明治六年五月十日 富山市総曲輪に生まれる 富山中学中退
検定試験合格 昭和三十三年十一月二日歿す 享年八十五歳 墓は富山市五穀 長
慶寺にある



山田孝雄歌碑

所在地 富山県富山市新桜町 7-38 市役所別館 食堂裏

百 千 度 くり か へ し て も

讀 毎 に こ と 新 な り

古 之 典 孝 雄

碑陰

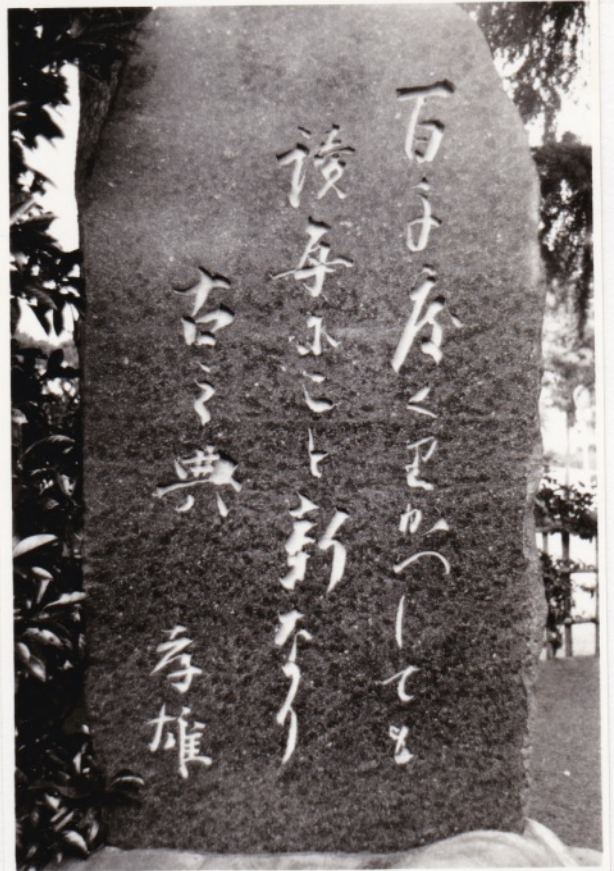
山田孝雄博士略歴

博士は明治六年富山市総曲輪に生る。後精到を極めし獨學を重ねて、わが國國語學界の泰斗となれり。東北大學教授、神宮皇學館大學長、貴族院議員、國史編修院長等々を歴任し、終戦後には阿部次郎企画の日本文化研究所の監理者として再び仙台に招待され、その後文化勲章を授けられ、富山市名誉市民に推され、昭和三十三年、享年八十四才にして、仙台にて逝去す。博士の著書は日本文法論を初め百二十余部に及ぶ。

昭和三十五年十二月

東北大學名誉教授 小宮豊隆書

山田孝雄博士顕彰会建之



山田孝雄歌碑

昭和五十四年

富

山

市

山田洋次記念碑

所在地 東京都葛飾区柴又7丁目 柴又帝釈天 前通

私生まれも育ちも

葛飾柴又です

帝釈天で産湯をつかい

姓は車 名は寅次郎

人呼んでフーテンの寅と発します

山田洋次

碑陰

協賛者

会社名 多数列記

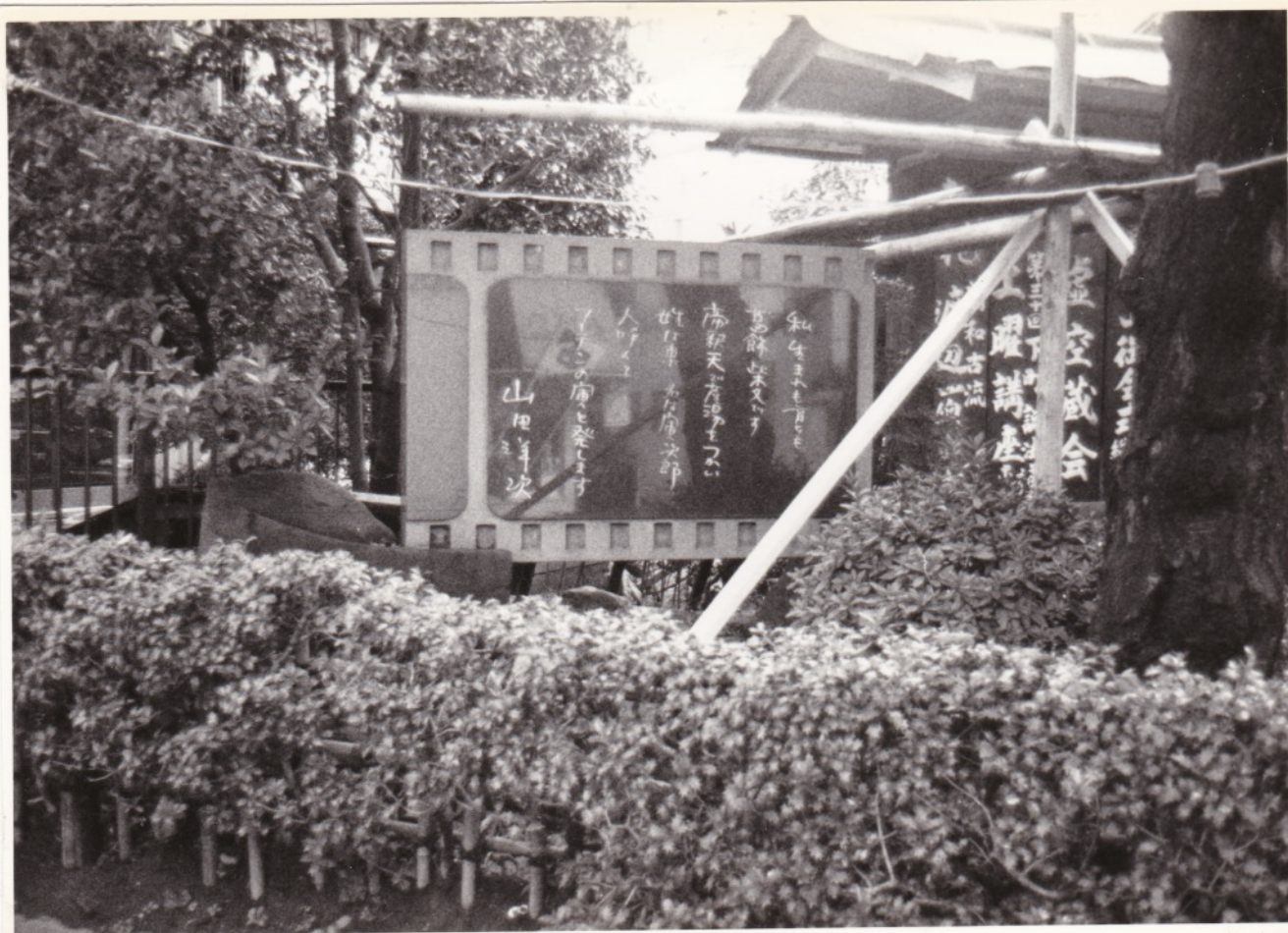
氏 名

昭和五十一年六月吉辰建之

経榮山題経寺第十八世 望月日翔代

題経寺 執事 岩田文成(?) 書





香賀謝
虚空蔵会
山田次郎



山手樹一郎句碑

所在地 東京都世田谷区北鳥山五十一 宗福寺門内

天地の

春は

豊かに

月の暈

山手樹一郎

碑陰

昭和五十五年三月

新樹同人建立

十一名列記

略歴

山手樹一郎 本名 井口長次 明治三十二年三月十二日 栃木県黒磯町に生まれる
明治中学卒 昭和五十二年三月十六日歿す 享年七十九歳 墓は東京都世田谷区北鳥
山五十一 宗福寺墓地にある



山手樹一郎句碑

所在地 東京都世田谷区北烏山 5・10・1 宗福寺 門内

天 地 の

春 は

豊 か に

月 の 暈

山手樹一郎

碑陰

昭和五十五年三月

新樹同人建立

十一名列記

(略)

略歴

山手樹一郎 本名 井口長次 明治 32 年 2 月 11 日 栃木県黒磯町に生れる
明治中学卒 昭和 53 年 3 月 16 日歿す 享年 79 歳 墓は東京都世田谷区
北烏山 5・10・1 宗福寺墓地にある



山村暮鳥詩碑

所在地 福島県いわき市平堂根町 いわき市文化センター前

雲

おうい雲よ

ゆうゆうと

馬鹿にのんきさうぢやないか

どこまでゆくんだ

ずっと磐城平の方までゆくんか

暮鳥

碑陰

建碑略記

山村暮鳥（本名土田八九十）は明治十七年 群馬県 群馬町出生 築地の 聖三一神学校を卒後 各地の聖公会を経て 大正元年 いわき市平に着任 同七年 水戸に転任するまで 在任 この間 伝導活動の傍ら詩作に傾注 処女詩集「三人の処女」次いで 日本近代詩史上 不滅の詩業とされる「聖三稜玻璃」を出版 大きな響動を与えた 大正十二年 茨城県 大洗町で 病没 行年四十

今回の建碑は 生誕百年を記念したもので 詩は晩年の名詩集「雲」所収 揮筆は 当地生れの長女土田玲子さんによる

昭和五十九年五月三日

山村暮鳥の詩碑を建てる会



山村暮鳥詩碑

所在地 福島県いわき市平堂根町 いわき市文化センター前

雲

おうい雲よ

ゆうゆうと

馬鹿にのんきさうぢゃないか

どこまでゆくんた

ずっと磐城平の方までゆくんか

暮鳥

碑陰

建碑略記

山村暮鳥(本名土田八九十)は 明治十七年 群馬県群馬町出生 築地の 聖三一神学校を卒後 各地の聖公会を経て 大正元年 いわき市平に着任 同七年 水戸に転任するまで 在任 この間 伝道活動の傍ら詩作に傾注 処女詩集「三人の処女」次いで日本近代詩史上不滅の詩業とされる「聖三稜玻璃」を出版大きな聳動を与えた 大正十三年 茨城県 大洗町で病没 行年四十

今回の 建碑は 生誕百年を記念したもので 詩は晩年の名詩集「雲」所収 揮筆は 当地生れの長女土田玲子さんによる

昭和五十九年五月三日

山村暮鳥の詩碑を建てる会



山

山

山

山

山



山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山



山村暮鳥詩碑

所在地 茨城県茨城郡大洗町磯浜 大洗海岸松林の中

雲もまた自分のやうだ

自分のやうに

すっかり遠方にくれてゐるのだ

あまりにあまりにひるすぎる

涯のない蒼空なので

おう老子よ

こんなときだ

ににににとして

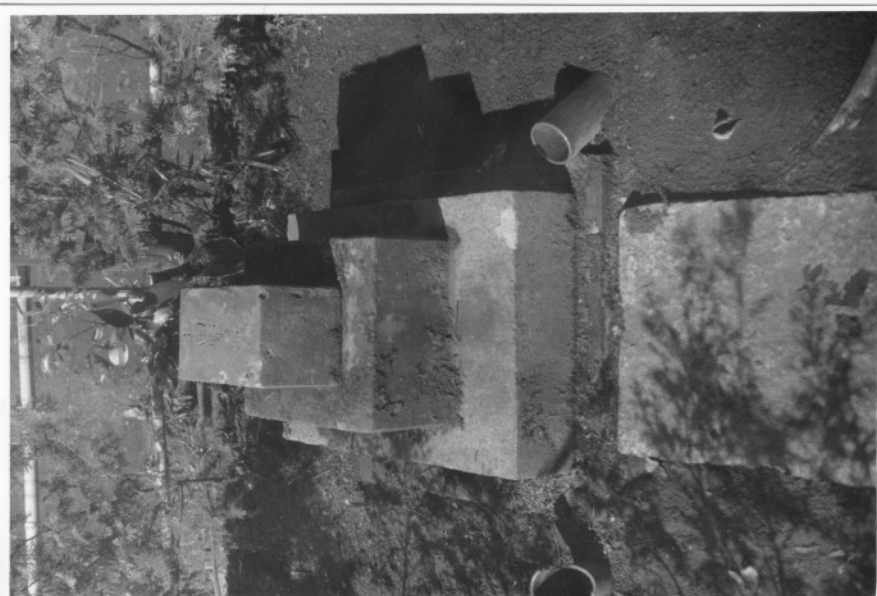
ひよつこりとでてきませんか

碑陰

山村暮鳥

詩碑

芋錢子書



山村暮鳥詩碑

所在地 茨城県東茨城郡大洗町磯浜 大洗海岸 松林の中

雲もまた自分のやうだ

自分のやうに

すっかり途方にくれてゐるのだ

あまりにあまりにひろすぎる

涯のない蒼空なので

おう老子よ

こんなときだ

にこにことして

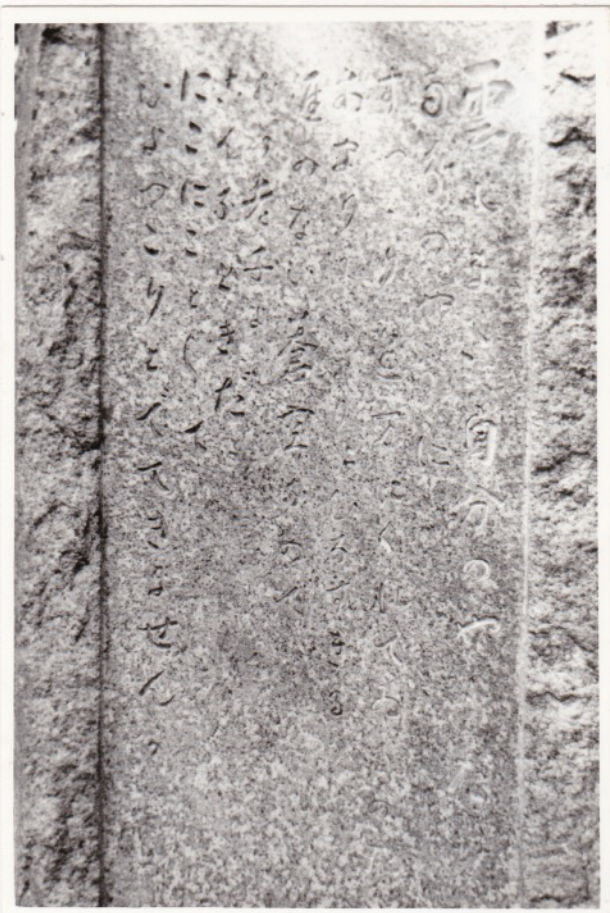
ひょっこりとでてきませんか

碑陰

山村暮鳥

詩碑

芋錢子 書



詩考と詩のこ

アJヨ

依い昔書きつてり



山村暮鳥詩碑

所在地 茨城県那珂郡東海村村松公園 村松虚空藏堂裏側

おう土よ生けるものよ

その黒さに太古のかほ

りがただよってゐる

録 暮鳥詩 犀星

昭和十四深秋

副碑

山村暮鳥詩碑建立募金賛同者御芳名

三〇〇名

二二二名 五十一社(団体含む)

白御影自然石 寄贈 中野慶吉

副碑裏面

山村暮鳥詩碑建立委員会

会長 川崎義彦

副会長 二名

委員 四十九名

昭和五十二年四月六日除幕

碑陰

暮鳥詩碑の記

山村暮鳥 本名 木暮八九十 後 土田氏となる
明治十七年一月 群馬町に生る 長じて上京し
聖三一神学校を予え伝導師とて各地に転じつ、

詩作に励み 日本近代詩史上に不朽の足跡を残す
大正九年一月居を大洗町に定め多くの作品を
世に問う 殊に傑作「雲」を発表し 光茫を放つ
その間 村松に遊ぶ 大正十三年十二月八日長逝す

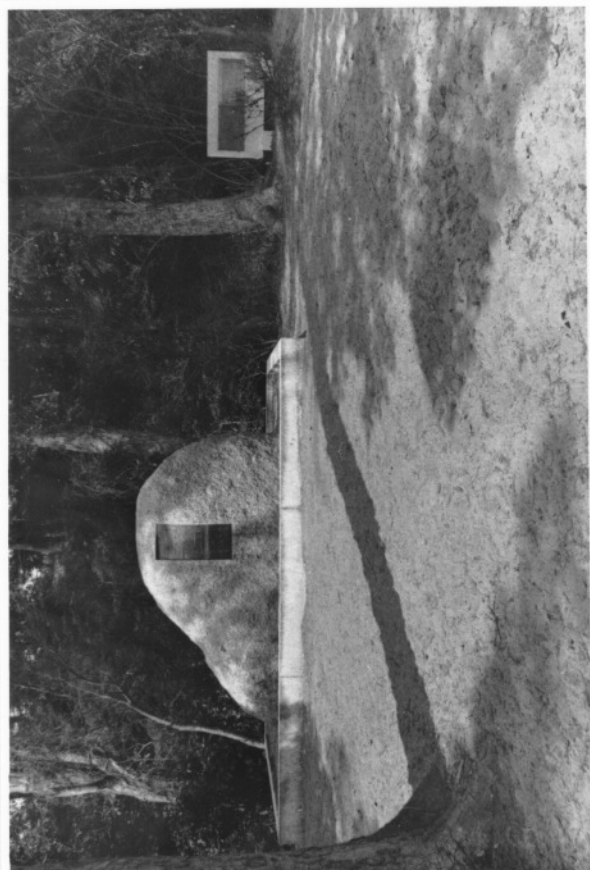
昭和三年 村松村長照沼信忠 村松山二世原隆
ら暮鳥を敬慕する人々詩碑建立のことをはか
し 十四年秋たま／＼萩原朔太郎とともに 来水
る 暮鳥が友 室生犀星に書を乞うも 戦時下
故を以て中絶せり

昭和四十七年春照沼信忠父の遺品の中にこ
が書を見出す 詩集「土の精神」の一節なり
されば同志相より先人の素志を完うせんと実
立志以来四十年暮鳥逝きて五十有二年にして
にこの碑を建つ 感 無量なり

即ちその由来を刻し 以て 後世に残す

昭和五十一年十二月

東海村長 川崎義彦撰并書



山村暮鳥詩碑

所在地 茨城県那珂郡東海村村松 8 番地 村松虚空蔵堂 裏側

おう土よ生けるものよ
その黒さに太古のかほ
りがただよってゐる

録 暮鳥詩犀星

昭和十四年深秋

副碑

山村暮鳥詩碑建立募金賛同者同者御芳名

三〇〇名

二二二名 五十一社(団体も含む)

白御影自然石 寄贈 中野慶吉

副碑裏面

山村暮鳥詩碑建立委員会

会 長 川崎義彦

原 教仙

副会長二名委員四十九名

昭和五十二年四月十六日除幕

碑陰

暮鳥詩碑の記

山村暮鳥 本名 木暮八九十 後 土田氏となる
明治十七年一月 群馬町に生る 長じて上京し
聖三一神学校を了え伝導師として各地に転じつゝ
詩作に励み 日本近代詩史上に不朽の足跡を残す
大正九年一月居を大洗町に定め多くの作品を
世に問う 殊に傑作「雲」を発表し 光芒を放つ
その間村松に遊ぶ大正十三年十二月八日長逝す
昭和十二年村松村長照沼信忠 村町山二世原隆
明ら暮鳥を敬慕する人々詩碑建立のことをはかり
十四年秋たま／＼萩原朔太郎とともに 来水
せる 暮鳥が友 室生犀星に書を乞うも 戦時下
の故を以て中絶せり

昭和四十七年春照沼信邦亡父の遺品の中にこ
れが書を見出す 詩集「土の精神」の一節なり
されば同志相より先人の素志を完うせんと実
に立志以来四十年暮鳥逝きて五十有二年にして
茲にこの碑を建つ 感 無量なり

即ちその由来を刻し 以て 後世に残す

昭和五十一年十二月

東海村長 川崎義彦撰并書



山

西

は
の
で

香取縣香

(1) 香

古

会

香

山

香取縣香取市香取町

香取町香取山

香取縣香取市香取町

香取縣香取市香取町

香取縣香取市香取町

香取縣香取市香取町

香取縣香取市香取町



香取縣香取市香取町

香取縣香取市香取町

香取縣香取市香取町

香取縣香取市香取町

香取縣香取市香取町

山村暮鳥詩碑

所在地 群馬県前橋市石倉町五百三番地 中央大橋西詰の川畔

ふるさと

溶々として

天の川がながれてゐる

すっかり秋だ

とほく

とほく

豆粒のやうな

ふるさとだのう

山村暮鳥

碑陰

文字なし

副碑

山村暮鳥について

和田義昭



山村暮鳥（本名 土田八九十）は、明治十七年一月十日、群馬郡群馬町棟高に生まれた。恵まれない家庭環境の中で刻苦精進して、明治三十二年、十六才で堤ヶ岡小学校の代用教員となる。同時に前橋聖マツテア教会の英、夜学校に通い、学んだ。暮鳥はこの教会で学ぶことにより、初めて人間的自我に目覚めたのである。明治三十五年に受洗。翌三十六年に東京聖三一神学校に入学。卒業後は、キリスト教伝導師の職につき、宗教と文学の間に苦悶しながら福島県いわき市（現・仙台市）の水戸市等に移り、その間に詩集『三人の処女』（大正二年）『聖三稜鏡』（大正四年）『萩原朔太郎』（大正七年）を発表し、萩原朔太郎はじめて詩壇に大きな影響を与えた。大正七年に病に倒れ、以後宿痾と貧困とに闘いながら詩作に没頭し、ついに詩集『雲』（大正十四年）の東洋的な天地宇宙と自我との融一の中に、自己（人間）の救済を発見すると言った。詩集の他に『ちるちるみちる』『万物の世界』『鉄の靴』等の童話、童謡も残して没した。大正十三年十二月八日、茨城県大洗で碑文の詩「ふるさと」は晩年の詩集『雲』から採った。碑文の文字は暮鳥の自筆である。昭和五年四月六日除幕。

前橋市観光協会

山村暮鳥詩碑

所在地 群馬県前橋市石倉町 5-1 中央大橋 西詰の河畔

ふ る さ と
淙々として
天の川がながれてゐる
すっかり秋だ
とほく
とほく
豆粒のやうな
ふるさとだのう
山 村 暮 鳥

碑陰

文字なし

副碑

山 村 暮 鳥 に つ い て

和田義昭

山村暮鳥（本名 土田八九十）は、明治十七年一月十日、群馬郡群馬町棟高に生まれた。恵まれない家庭環境の中で刻苦精進して、明治三十二年、十六才で堤ヶ岡小学校の代用教員となる。同時に前橋聖マッテア教会の英語夜学校に学んだ。暮鳥はこの教会で学ぶことによって、初めて人間的自我に目覚めたのである。

明治三十五年に受洗。翌三十六年に東京築地の聖三一神学校に入学。卒業後は、キリスト教伝導師の職につき、宗教と文学の間に苦悶しながら福島県いわき市(平)・仙台市・水戸市等に転々と移り、その間に詩集『三人の処女』（大正二年）『聖三稜玻璃』（大正四年）によって詩壇に登場し、萩原朔太郎はじめ詩壇に大きな影響を与えた。

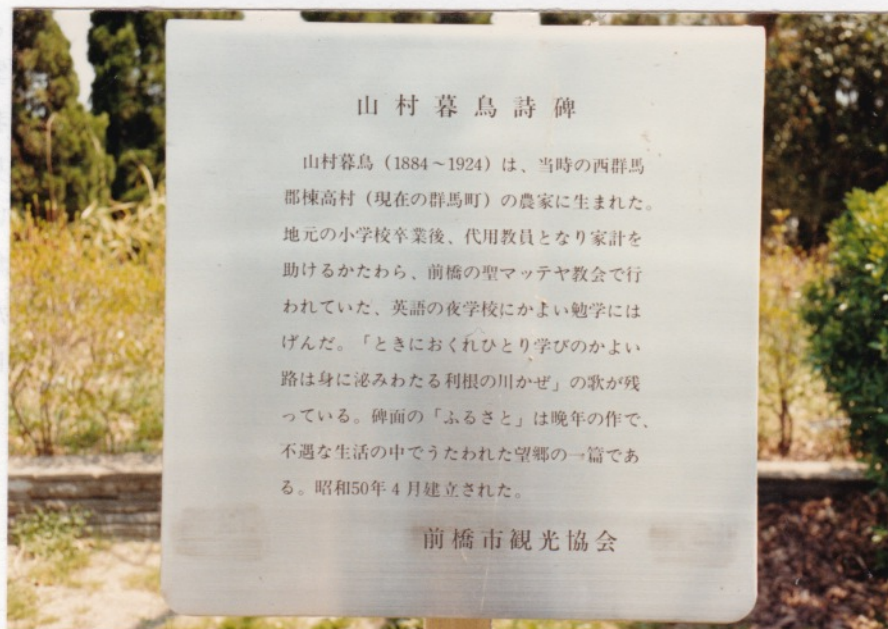
大正七年に病に倒れ、以後病痾と貧困とに闘いながら詩作に没頭し、ついに詩集『雲』

（大正十四年）の東洋的な天地宇宙と自我との融一の中に、自己（人間）の救済を発見すると言う、超俗至純の世界を志向するにいた

った。詩集の他に『ちるちるみちる』『万物／の世界』『鉄の靴』等の童話童謡集も残して／いる。大正十三年十二月八日、茨城県大洗で／没した。四十一才であった。／

碑文の詩「ふるさと」は晩年の詩集『雲』／から採った。碑文の文字は暮鳥の自筆である／が、晩年の原稿から採字したものである。／

昭和五十年四月十八日 除幕／ 前橋市観光協会／





山村暮鳥詩碑

所在地 群馬県前橋市城東町 こども公園内 文学の小道

ゆふがた

碑陰

文字なし

馬よ

そんなおほきななりをして

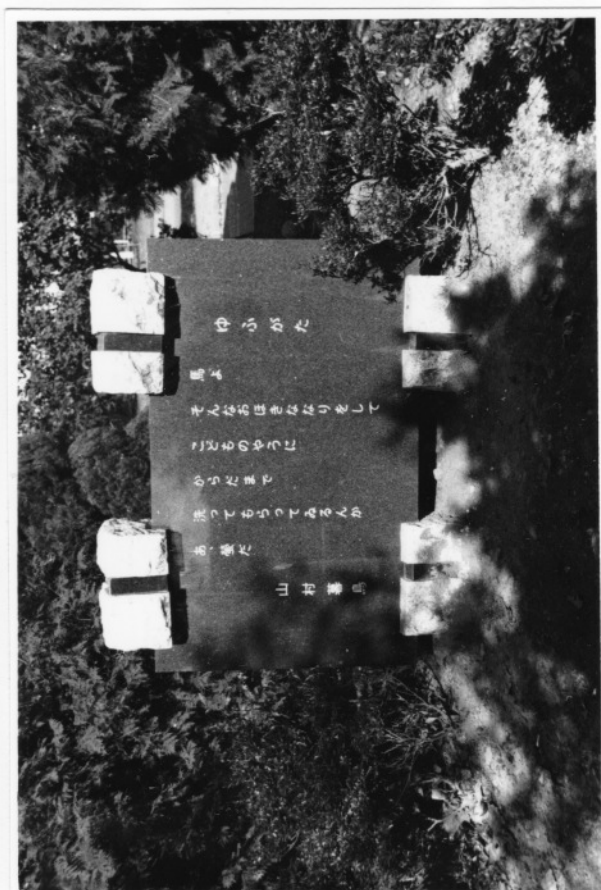
こどものやうに

からだまで

洗ってもらってるんか

あ、螢だ

山村暮鳥



山村暮鳥詩碑

所在地 群馬県前橋市城東町 こども公園内 文学の小道

ゆ ふ が た

馬 よ

そんなおほきななりをして

こどものやうに

からだまで

洗ってもらってゐるんか

あ、蛍だ

山村暮鳥

碑陰

文字なし



山

山

山

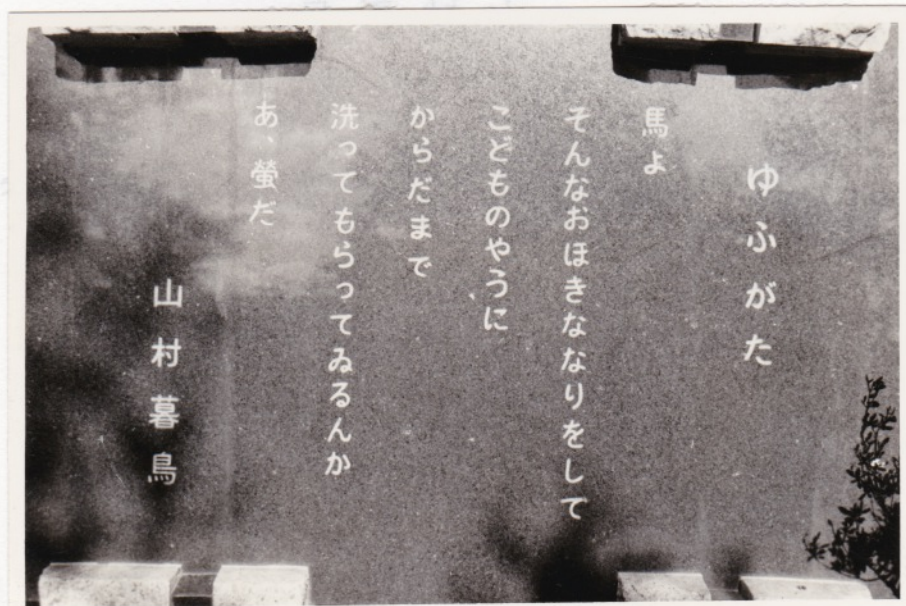
山

山

山

山

山



山村暮鳥詩碑

所在地 群馬県高崎市山名町 根小屋城址 自然歩道脇

梅

山村暮鳥

碑陰

文字なし

おい、そつと

そつと

しづかに

梅の匂ひだ



山村暮鳥詩碑

所在地 群馬県高崎市山名町 根小屋城址 自然歩道脇

梅

山村暮鳥

おい、そっと

そっと

しづかに

梅の匂ひだ。

碑陰

文字なし

略歴

山村暮鳥 本名 土田八九十 明治17年1月10日 群馬県群馬郡棟高村（現群馬町）に生れる 築地聖三一神学校卒業 大正13年12月8日歿す 享年40歳 墓は水戸市八幡 11-69 祇園寺の下寺 光霖寺墓地にある

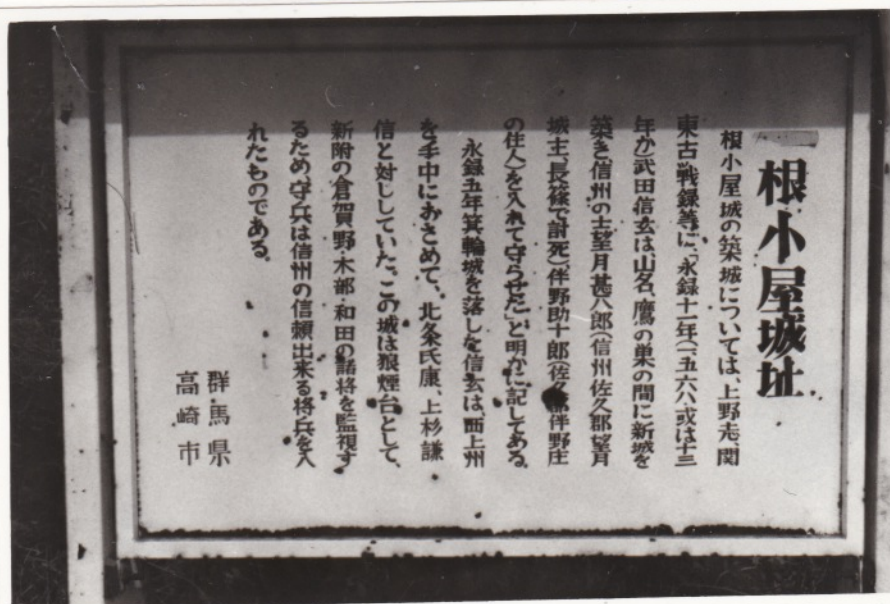
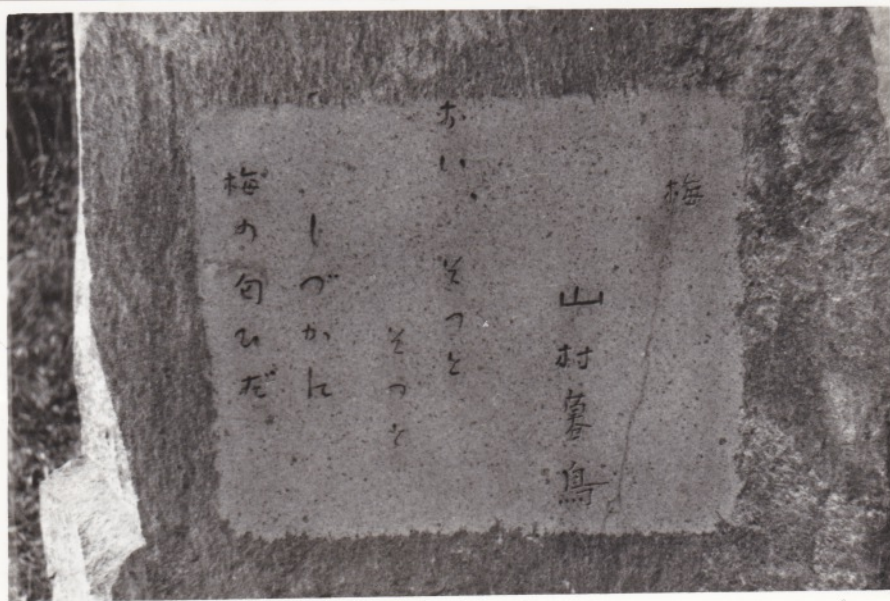


山 林 山

梅 山 林 山

山 林 山

山 林 山



根小屋城址

根小屋城の築城については、上野走間
東古戦録等に、永禄十年(五六八)或は三
年、武田信玄は山名鷹の巢の間に新城を
築き、信州の主望月基八郎(信州佐久郡望月
城主、長祿で討死)、伴野助十郎(伴野庄
の住人)を入れて守らせたと明かに記してある。
永禄五年箕輪城を落し、信玄は而上州
を手中におさめて、北条氏康、上杉謙
信と対していた。この城は狼煙台として、
新附の倉賀野木部和田の諸將を監視す
るため、守兵は信州の信頼出来る將兵を入
れたものである。

群馬県
高崎市

山村暮鳥詩碑

所在地 群馬県北群馬郡伊香保町 水沢観音境内

ひぐらし

碑陰

文字なし

また^{もとも}鯛のなく頃となつた

かなかな

かなかな

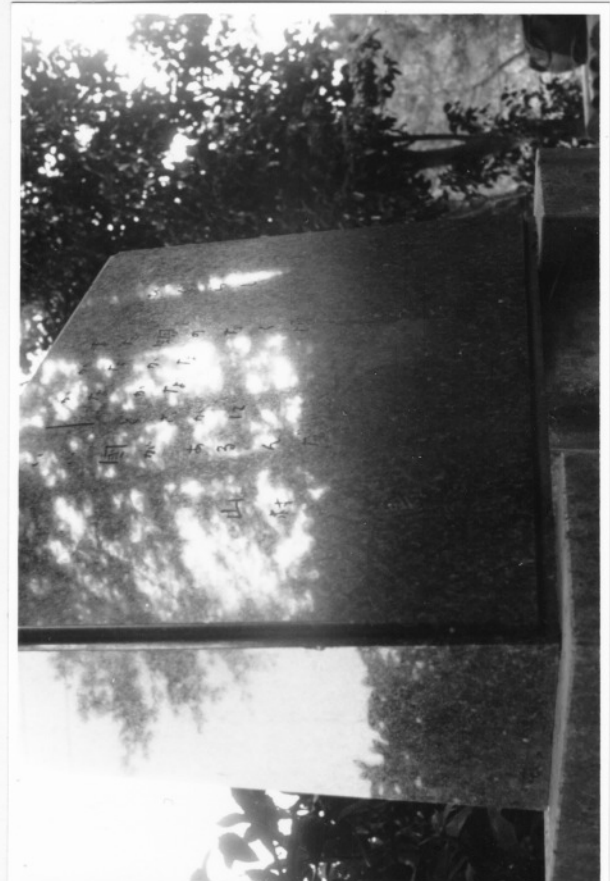
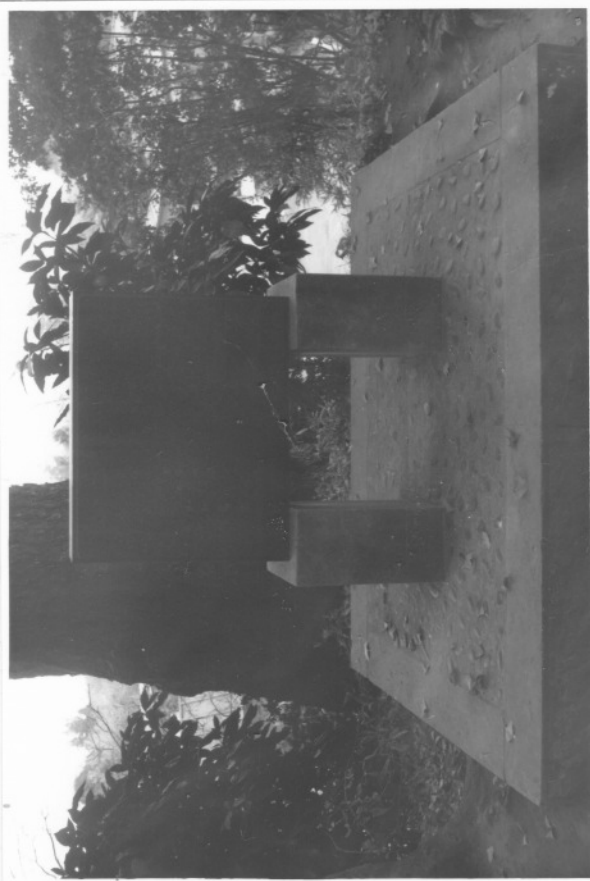
いづこかに

いい國があるんだ

山村暮鳥

略歴

山村暮鳥 本名 土田八九十 明治十七年一月十日 群馬県群馬郡棟高村(現群馬町)に生まれる 築地聖三一神学校卒 大正十三年十二月八日歿す 享年四十歳 墓は水戸市八幡十一・六十九 祇園寺の下寺 光霖寺墓地にある



山村暮鳥詩碑

所在地 群馬県渋川市伊香保町 水沢観音境内

ひぐらし

また ^{ひぐらし} 蝸のなく頃となった

かなかな

かなかな

—— どこかに

いい國があるんだ

山村暮鳥

碑陰

文字なし

山林暮集精輯

伊勢新聞社刊 昭和十一年四月

うさぎ



山村暮鳥詩碑

所在地 群馬県群馬郡群馬町足門二六七 群馬中央中学校校庭

山村暮鳥詩碑

月

山村暮鳥詩碑

昭和三十三年十一月七日建之

詩碑建設委員会

松にも
椎にも
ほのかな風の翳がある
しい代として……
月の匂ひが
とめどなく
ながれる

副碑

記の碑建

山村暮鳥本名木暮八九十後土田氏となる明治十七年一月この美しい地の群馬町棟高に生れ育った明治三十五年多感の夢を抱いて郷里を去り転々として陸奥路に居を変えつつ詩情を深め觀照を磨きやがて茨城県磯浜に安住の地を求め詩壇に不拔の地位を築く大正十三年十二月八日病のために四十一才にて逝くいま暮鳥を敬慕する人々の浄財とを遠く水戸の暮鳥会より贈られた稲田御影石を台に自筆の詩一篇を刻しその人と芸術を慕う今と後の世の人々に遺す
昭和三十三年十一月七日 建之



山村暮鳥詩碑

所在地 群馬県高崎市群馬町足門 1667 群馬中央中学校 校庭

山村暮鳥詩碑 (横書き この前に縦書きで次の詩碑あり)

月

山村暮鳥

松にも
椎にも

ほのかな風の^{かげ}翳がある
しいんとして……

月の匂ひが
とめどなく
ながれる

碑陰

昭和三十三年十二月七日建之
詩碑建設委員会

副碑

建

碑

の

記

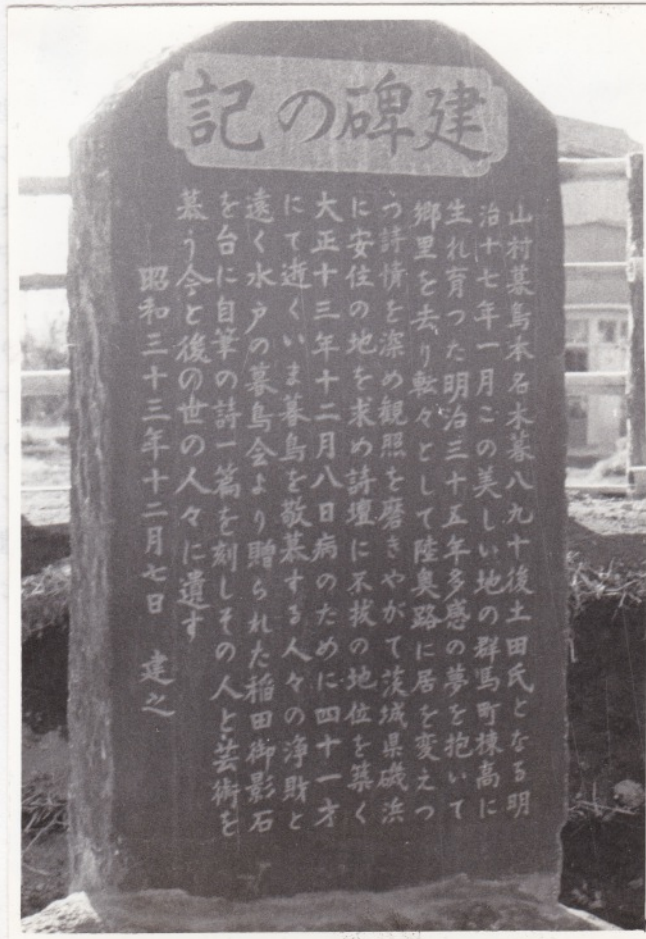
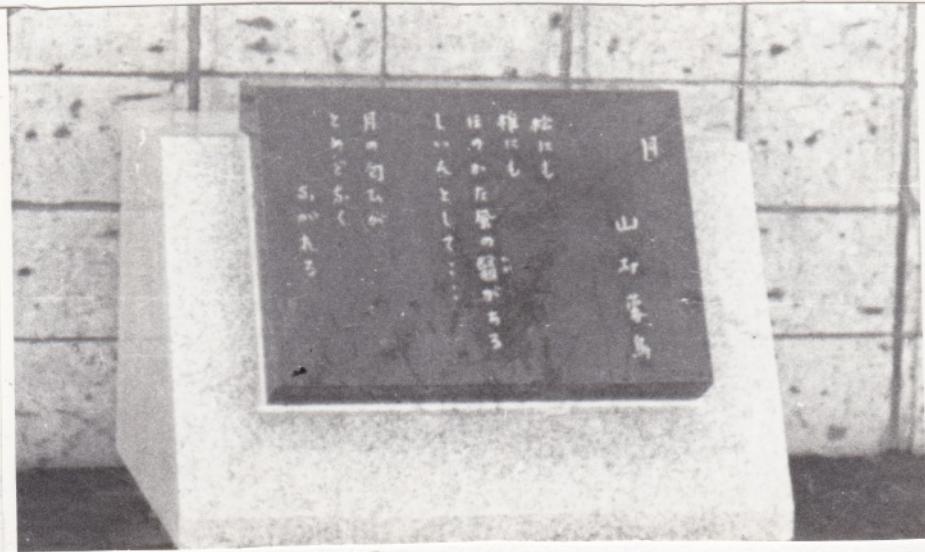
山村暮鳥本名木暮八九十後土田氏となる明治十七年一月この美しい地の群馬町棟高に生れ育った明治三十五年多感の夢を抱いて郷里を去り転々として陸奥路に居を変えつつ詩情を深め観照を磨きやがて茨城県磯浜に安住の地を求め詩壇に不拔の地位を築く大正十三年十二月八日病のために四十一才にて逝くいま暮鳥を敬慕する人々の浄財と遠く水戸の暮鳥会より贈られた稲田御影石を台に自筆の詩一篇を刻しその人と芸術を慕う今と後の世の人々に遺す
昭和三十三年十二月七日 建之



山 林

山 林

山



建碑の記

山村基鳥本名木基八九十後土田氏となる明治十七年一月この美しい地の群馬町棟高に生れ育つた明治三十五年多感の夢を抱いて郷里を去り転々として陸奥路に居を変えつう詩情を深め親照を磨きやがて茨城県磯浜に安住の地を求め詩壇に不拔の地位を築く大正十三年十二月八日病のために四十一才にて遠くいま基鳥を敬慕する人々の浄財とて遠く水戸の基鳥会より贈られた稲田御影石を台に自筆の詩一篇を刻しその人と芸術を慕う今と後の世の人々に遺す
昭和三十三年十二月七日 建之

山室軍平記念碑

所在地 東京都府中市多磨町四番 多磨霊園内

憂ふる者の如くなれども常に喜び

貧しき者の如くなれども多くの人を富ませ

何も有たぬ者の如くなれども凡ての物を有てり

山室軍平

裏面

軍平 山室氏 日本好男児
眞醇基督教者 信道不自疑
困苦鍊口 性安歩 忘險夷
畢生唯奉仕 渾身是受愛慈
積善豈要報 丹誠天神知

友人蘇峯徳富正敬書

略歴

山室軍平 明治五年九月一日（西暦は九月十三日）岡山県哲多郡則安村（現哲多町）に生まれる 同志社中退 伝道師となる 昭和十五年三月十三日歿す 享年六十七歳 墓は東京都府中市多磨町 多磨霊園 十五区一種十一側二番にある



山室軍平記念碑

所在地 東京都府中市多磨町4丁目 多磨霊園内

憂ふる者の如くなれども常に喜び

貧しき者の如くなれども多くの人を富ませ

何も持たぬ者の如くなれども凡ての物を有てり

山室軍平

裏面

軍平山室氏日本好男児

眞醇基督者信道不自疑

困苦鍊品性安歩忘險夷

畢生唯奉仕渾身是愛慈

積善豈要報丹誠天神知

友人蘇峯徳富正敬書

略歴

山室軍平 明治5年8月20日（戸籍は8月20日）岡山県哲多郡則安村（現哲多町）に生まれる 同志社中退 伝導師となる 昭和15年3月13日歿す 享年67歳 墓は東京都府中市多磨町 多磨霊園15区1種11側1番にある



山室軍

昭和五年 東京府

愛媛県

貧

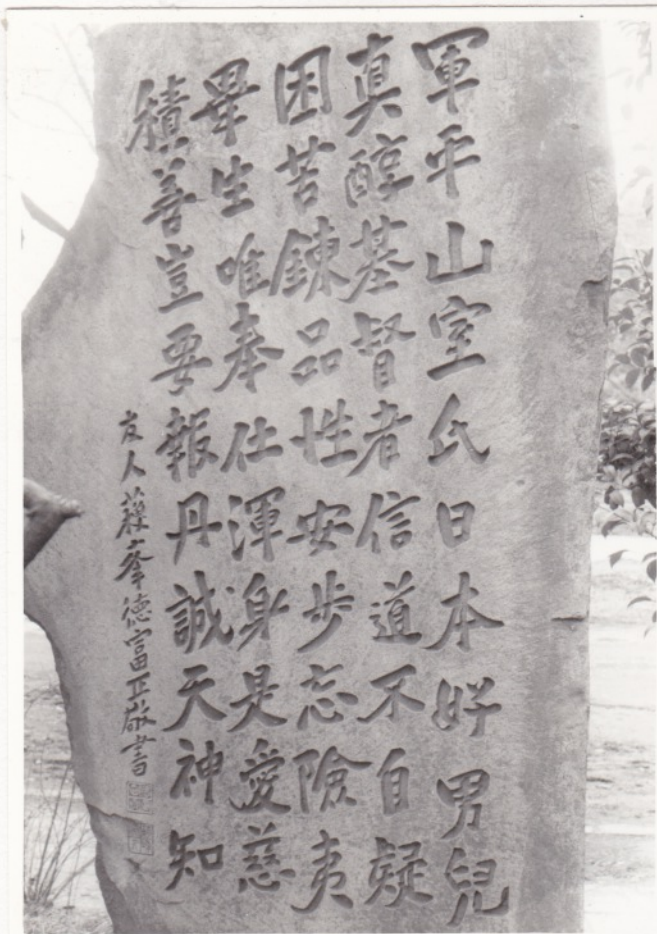
同業大

富主

つ

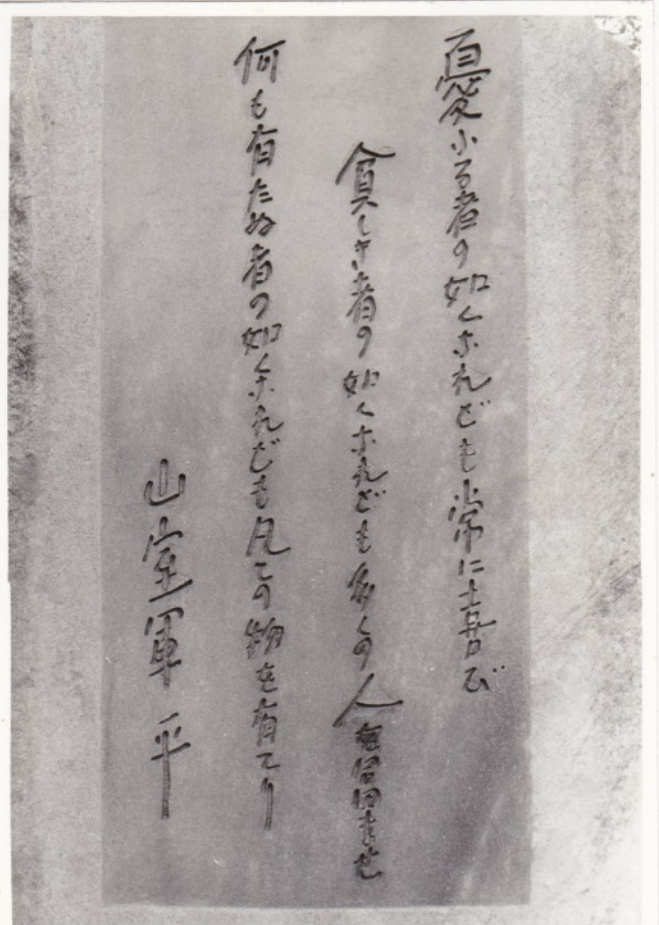
民

刻通書詩司世小自



軍平山室氏日本好男兒
真醇基督者信道不自疑
困苦鍊品性安步忘險夷
畢生唯奉仕渾身是愛慈
積善豈要報丹誠天神知

友人藤奉徳富正敬書



百愛小る者り如ふれども常に士丹び

負しき者り如ふれども多し人無信回も

何も有たぬ者り如ふれども凡そ物を有てり

山室軍平

山本和夫詩碑

所在地 福井県小浜市門前五三（明理寺境内）

この村は、

十二月にはいれば大雪溪となり

六月が来れば、

花を盛つた緑の谷です

フキの葉つばとひな鳥となつて

びよびよ

秋ともなれば

つぶらな木の実のマーケット

村のはずれには

古ぼけた地蔵さまが

雪や風や雨にさらされています

この村は私に

星に乗って青い大空を旅することを

教えてくれました

ひとりで喋ることを

教えてくれました

「青の村」より

山本和夫

略歴

山本和夫 明治四十年四月二十五日、福井県小浜町の門前に生まれる
東洋大学倫理学東洋文学科卒業
平成八年五月二十五日歿 享年八十九歳

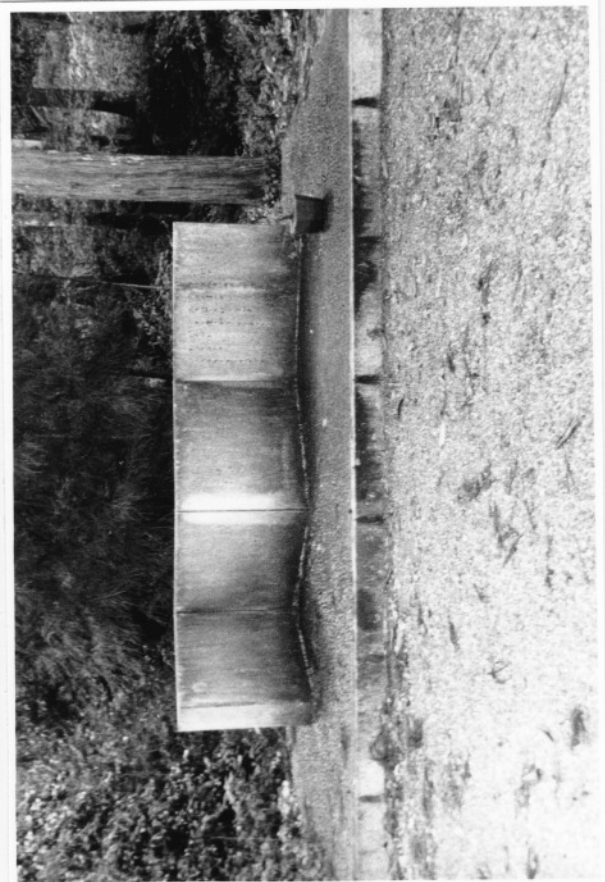
碑陰

山本和夫先生は、明治四十年四月二十五日ここに門前の里に生を享けた。若くして詩壇に活躍し、戦後は児童文学の世界にも多くの業績をあげている。かつて鶴山農場や若狭文化会で先生の薫陶を受けた同志が発起し、中川知事、浦谷市長をはじめ、ひろく七百名にのぼる諸氏の賛同を得て、茲に谷口吉郎博士の設計によるモニュメントを建立し、先生の詩魂を讃えるものである。

昭和五十年十一月二十二日

山本和夫詩碑建立発起人会

設計 谷口吉郎
施工 熊谷組



山本和夫詩碑

所在地 福井県小浜市門前 5-21 明通寺境内

この村は

十二月にはいれば大雪溪となり

六月が来れば

花を盛った緑の谷です 碑陰

フキの葉っぱとひな鳥となって

ぴよぴよ

秋ともなれば

つぶらな木の実のマーケット

村のはずれには

古ぼけた地藏さまが

雪や風や雨にさらされています

この村は私に

星に乗って青い大空を旅することを 昭和五十年十一月二十三日

教えてくれました

ひとりで喋ることを

教えてくれました

山本和夫先生は 明治四十年四月二十五日

ここ 門前の里に生を享けた 若くして詩壇

に活躍し 戦後は児童文学の世界にも多くの

業績をあげている

かつて鶉山農場や若狭文化会で先生の薫陶

をうけた同志が発起し 中川知事 浦谷市長

をはじめ ひろく七百名にのぼる諸氏の賛同

を得て 茲に谷口吉郎博士の設計によるモニ

ュメントを建立し 先生の詩魂を讃えるもの

である

山本和夫詩碑建立発起人会

設計 谷口吉郎

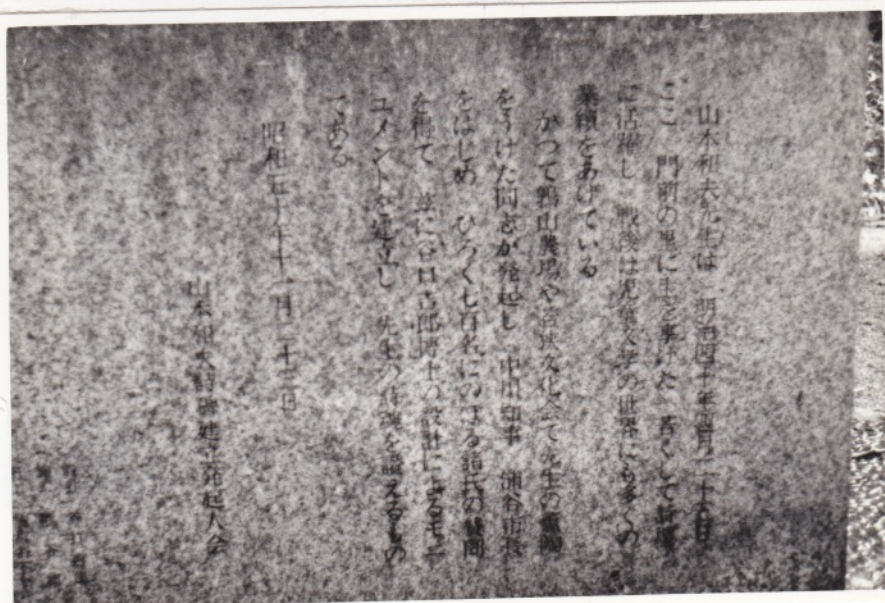
施工 熊谷組

「青の村」より

山本和夫

略歴

山本和夫 明治40年4月25日 福井県小浜町の門前に生れる 東洋大学倫理学
東洋文学科卒業 平成8年5月25日歿す 享年89歳



夢中落花

健吉

山本健吉文学碑

所在地 岩手県北上市本石町 詩歌の森公園(墓所跡地)内

碑陰

山本健吉文学碑

設計 舟越 保武

制作 金澤 宏

建立 平成五年三月

北上市

(注) 「夢中落花」は歌人西行の歌の前書にあるもので健吉の座右の言葉



山本健吉文学碑

所在地 岩手県北上市本石町 詩歌の森公園（黒沢尻工高跡地）内

★ 花 落 中 夢 (横書き)

(★のところに縦書きで健吉と書かれている)

碑陰

山本健吉文学碑

設計 船越保武

制作 金澤 宏

建立 平成五年三月

北上市

(注)「夢中落花」は歌人西行の歌の前書にあるもので健吉の座右の言葉

略歴

山本健吉 本名 石橋貞吉 明治40年4月26日 長崎市磨屋(とぎや)町に
生れる 慶大国文科卒 昭和63年5月7日歿す 享年81歳 墓は福岡県
八女市本町西古松283 無量寿院墓地にある

(参考) 画家の坂本繁二郎氏の墓もあり 文化勲章受章の二氏が眠って
いる珍しい寺である



山本健吉文学碑

所在地 長崎県長崎市上西山町 諏訪神社 正面石段左側

母郷行

山本健吉

長崎の町に行く。雨が洗った石畳の坂道、西日のさす白壁の土蔵の前、物の匂ひのこめる市なかに、ふと少年のままたたずむ私を見る。速い記憶の、故里のかけらの中に、少年は佇む。

私が町を憶えてゐる以上に、町は幼い私を憶えてゐてくれた。それが故郷といふものか。いま私は、わが身を何か大きなものの手に、すつぽりと委ねてゐる。寛く深い母の懷ろにあるやうに。

その時遠く、潮騒のやうに聞えてくる子守唄は、うぶすな祭の笛のね、秋空に韻く太鼓のおと。

碑陰

日本独自の「美」の探求に、山本健吉氏はほど己れを盡した人を知らない。不朽の名著「いのちとかたち」、「詩の自覚の歴史」を初めとする一連の仕事には、己れを盡した人だけの持つ漂乎としたものと、醇乎としたもののあるのを感じる。併し、氏の仕事はまだ終っていない。新しい山嶺を窺っている氏の今後を、同時代に生きる一人の作家として見守り続けてゆかねばならない。そして氏の驥尾に付して、私も亦私の道を歩もうと思ふのだ。

昭和五十九年十一月

井上靖誌す



略歴

山本健吉 本名 石橋貞吉(ていきち)
明治四十年四月二十六日 長崎市唐屋
(とや)町に生まれる 慶大国文学
科卒 昭和六十二年五月七日歿す 享年八十二歳 墓は福岡県八女市本町
西古松二六三 無量寿院墓地にある

(参考) 画家の坂本繁二郎氏の墓も
この寺にあり文化勲章受章の二
氏が眠っている珍しい処である

山本健吉文学碑

所在地 長崎県長崎市上西山町 諏訪神社 正面石段途中 左側

母郷行

山本健吉

長崎の町に行く。雨が洗った石畳の坂道、西日のさす白壁の土蔵の前、物の匂ひのこめる市なかに、ふと少年のままたたずむ私を見る。遠い記憶の、故里のかけらの中に、少年は佇つ。

私が町を憶えてゐる以上に、町は幼い私を憶えてゐてくれた。それが故郷といふものか。いま私は、わが身を何か大きなものの手に、すっぽりと委ねてゐる。寛く深い母の懷ろにあるやうに。

その時遠く、潮騒のやうに聞えてくる子守唄は、うぶすな祭の笛のね、秋空に韻く太鼓のおと。

碑陰

日本独自の“美”の探究に、山本健吉氏ほど己れを盡した人を知らない。不朽の名著「いのちとかたち」、「詩の自覚の歴史」を初めとする一連の仕事には、己れを盡した人だけの持つ凜呼としたものと、醇乎としたもののあるのを感じず。併し、氏の仕事はまだ終っていない。新しい山嶺を窺っている氏の今後を、同時代に生きる一人の作家として見守り続けてゆかねばならない。そして氏の驥尾に付して、私も亦私の道を歩もうと思うのだ。

昭和五十九年十一月

井上靖誌す



本山
山本健吉



山本周五郎文学碑

所在地 宮城県柴田郡柴田町 船岡公園内 樅の木の下

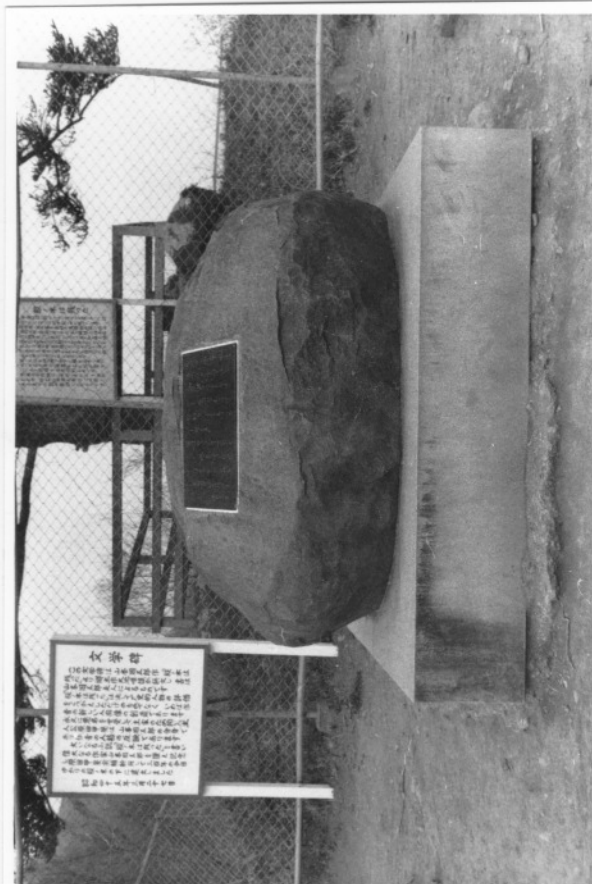
雪はしだいに激しくなり 樅の木の
枝が白くなった 空に向って伸びて
いる その枝にはいま雪を衣て凍と
力づよく 昏れかか(る) 光りの中に
独り静かにしんと立っていた
「—おじさま」
字乃はおもいをこめて呼びかけた
すると 樅の木が ほうとにじんで
そこに甲斐の姿があらわれた

山本周五郎「樅の木は残った」より

清水きん書

碑陰

文字なし



山本周五郎文学碑

所在地 宮城県柴田郡柴田町 船岡公園内 樅の木の下

雪はしだいに激しくなり 樅の木の
枝が白くなった 空に向って伸びて
いる その枝にはいま雪を衣て凜と
力づよく 昏れかかる 光りの中に
独り静かにじんと立っていた

「—— おじさま」

宇乃はおもいもこめて呼びかけた
すると 樅の木が ぼうとにじんで
そこに申斐の姿があらわれた

山本周五郎「樅の木は残った」より

清水きん書

碑陰

文字なし



文学碑

この文学碑は山本周五郎作「樫ノ木は残った」より郷土作大池唯雄が撰文し書は山本周五郎夫人によるものです
 樫ノ木は残ったは決して歴史的人物の評価をこつがえしただけのものではなく、いわば作者の新しい人間像の創造であります
 永久に悪名を甘受して主家のため殉じた主人公原田甲斐は山本周五郎の分身であり作者の人格の反映であります
 大いなる小説「樫ノ木は残った」を書いた偉大なる作家山本周五郎を讃え記念し原田甲斐宗輔斬死して三百年の今日ゆかりの樫ノ木の下に建立しました

昭和四十五年三月二十七日

山本周五郎記念碑

所在地 山梨県大月市初狩町下初狩三〇七 奥脇賢吾氏宅前

山本周五郎生誕之地

碑陰

山本周五郎略歴

氏は大月市初狩町下初狩八番戸に於て明治三十六年六月三日に生れ
父奥脇愛五郎が清水三十六と命名した。長じて四十五年の長きに亘り
山本周五郎の名で現代作家と世に重きをなし代表作に榎の木は残った
山彦乙女赤ひげ診療譚外数百に及ぶ文学作品を残し昭和四十二年二月十四日
逝去されたその霊は鎌倉霊園に葬る。享年六十二歳

昭和四十四年六月三日

兄 奥脇賢吾

弟 藤本勝満露

協賛 大月市教育委員会

略歴

山本周五郎 本名 清水 三十六（きと） 明治三十六年六月三日 山梨県北都留郡
初狩村現大月市下初狩に生まれる 西前小学校卒 正則英語学校に学ぶ
昭和四十二年二月十四日歿す 享年六十三歳 法名 惠光院周猷文窓居士 墓は神奈
川県鎌倉市十二所五二鎌倉霊園 二十九・四十七にある



山本周五郎記念碑

所在地 山梨県大月市初狩町下初狩 307 奥脇賢吾氏宅前

山本周五郎生誕之地

碑陰

山本周五郎略歴

氏は大月市初狩町下初狩八十二番地に於て明治三十六年六月二十二日に生れ
父奥脇愛五郎が清水三十六と命名した 長じて四十五年の長きに亘り
山本周五郎の名で現代作家として世に重きをなし代表作に樅の木は残った
山彦乙女赤ひげ診療譚外数百に及ぶ文学作品を残され昭和四十二年二月十四日
逝去されたその靈は鎌倉靈園に葬る 享年六十二歳

昭和五十四年六月二十二日

兄 奥脇 賢吾

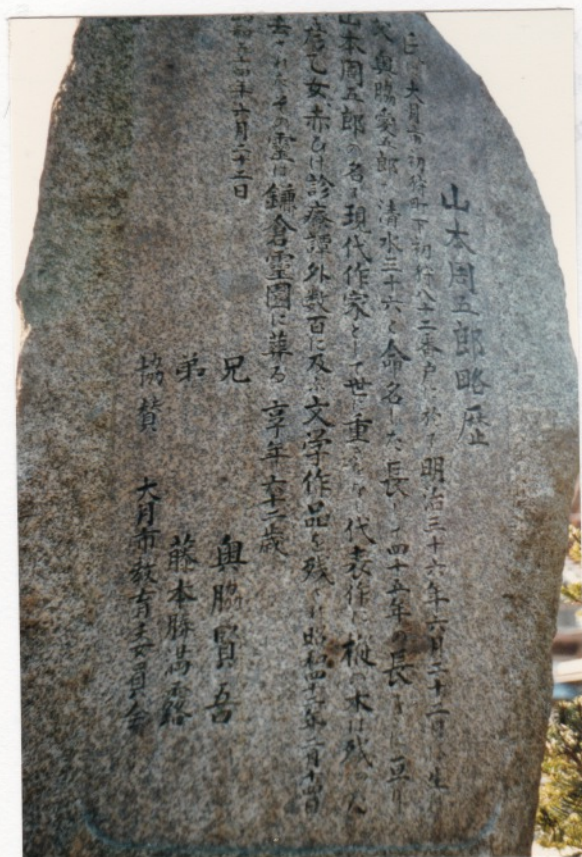
弟 藤本勝満露

協賛 大月市教育委員会

略歴

山本周五郎 本名 清水三十六(さとむ) 明治 36 年 6 月 22 日 山梨県北都留郡
初狩村に生れる 西前小学校卒 正則英語学校に学ぶ 昭和 42 年 2 月 14 日
歿す 享年 63 歳 法名 惠光院周嶽文窓居士 墓は神奈川県鎌倉市十二所 512
鎌倉靈園 39-4-17 にある





山本周五郎文学碑

所在地 山梨県斐崎市富士見ヶ丘 平和観音前

山本周五郎文学碑

つてはしめ斐崎という町に宿をと
のを見て春の来るまで付近のようす
のかし武田勝頼の拠ったそこは釜無川
の上で石垣も壘も乱雑たる廃墟
の折れやと焼けた木などが出る
といふとである

山彦乙女より

碑陰

山本周五郎畧歴
本名 山本周五郎
本籍 山本周五郎
地名 清水三十八町 明治三十六年六月二十二日生
三十八は旺盛なる精神力の人 意欲的人にして
平素泣き顔と言われない根性の人なり
作家生活四十五年 晩年 現在文学作品に入る
山本周五郎全集三十八巻あり
昭和四十二年二月十四日逝去 鎌倉に葬る
昭和四十五年六月二十二日
斐崎市文化協会 建之
佐藤丑蔵謹書



山本周五郎文学碑

所在地 山梨県韮崎市富士見ヶ丘 平和観音前

碑学文郎五周本山 (横書き)

(この下に次の文章が縦書きで書かれている)

はじめ韮崎という町に宿をと
って春の来るまで付近のようす
を見てまわったそこは釜無川
の東がわで川上のほうにはむ
かし武田勝頼の拠った新府城
の址がある川に面した断崖の
上で石垣も塁も乱雑たる廃墟
だったが今でも土を掘れば刀
の折れや焼けた糲などが出る
ということである

山彦乙女より

碑陰

山本周五郎略歴

ペンネーム 山本周五郎

本名 清水三十六 明治三十六年六月二十二日生

本籍地 韮崎市大草町若尾

三十六は旺盛なる精神力の人 意欲的人にして
平素泣きごとと言わない根性の人なり

作家生活四十五年 晩年 現在文学作品に入る
山本周五郎全集三十八巻あり

昭和四十二年二月十四日逝去 鎌倉に葬る

昭和四十五年六月二十二日

韮崎市建

韮崎市文化協会之

佐藤丑蔵謹書



正圖本山

經崇梁山 聖主南

[illegible]

日本五文新字

はしめ蓮崎といふ町に宿舎と
て春の来るまで付近のよりす
を見てまわった。そこは全無川
の東かわて川上のほうには、わ
かた武田勝頼の拠った新府城
の跡がある。川に面した断崖の
上で、石垣も堅も乱雑たる廃墟
のみが、今でも土を掘れば刀
の柄や、焼けた土などが出る
と、いふとある。

一歩を女よ

山本周五郎文学碑

所在地 兵庫県神戸市須磨区須磨寺四六 須磨寺正覚院道場前

須磨は秋であった。……

「ここが須磨寺だと康子が云った。池の水には白鳥が群を作って遊んでいた。雨がその上に静かに溅いでいた。池を廻って高い石段を登ると寺があった。」

「あなた、生きている目的が分りますか」

「目的ですか」

「生活の目的ではなく、生きている目的よ」

碑陰

文字なし

山本周五郎

(もう一つの石の表面)

貧困と病苦と絶望

に沈んでゐる人たちに^{のため}に
ひと女息心の恵まれるように

周五郎

副碑

「須磨寺附近」は、山本周五郎の全文学のなかで重要な作品である。これが文壇に登場した第一作であり、山本周五郎の筆名もこれにはじまるが、作品そのものにおいて作家としての資質、初心が明確にあらわれ、その文学の原核がすでに顕在している。

この短編は大正十五年四月号の「文藝春秋」に発表された。周五郎二十二歳、関東大震災の直後、しばらく住んだ須磨での体験が素材になつてゐる。

周五郎が読者にあてた遺書と思われる直筆を寫し、また「須磨寺附近」の原文を抜萃して、ここに記念とする。

弘法大師入定千百五十年御遠忌建之

文 足立 卷一
書 三浦 眞嚴
制作 速見 史朗



山本周五郎文学碑

所在地 兵庫県神戸市須磨区須磨寺町 4・6 須磨寺正覚院 道場前

須磨は秋であった。……

ここが須磨寺だと康子が云った。池の水には白鳥が群を作って遊んでいた。雨がその上に静かに濺いでいた。池を廻って高い石段を登ると寺があった。

「あなた、生きている目的が分りますか」

「目的ですか」

「生活の目的ではなく、生きている目的よ」

碑陰

文字なし

(もう一つの石の表面)

貧 困 と 病 苦 と 絶 望

(のため)

山 本 周 五 郎

に沈んでゐる人たちに幸
ひと安息の恵まれるように。

周五郎

副碑

「須磨寺附近」は、山本周五郎の全文学のなかで重要な作品である。これが文壇に登場した第一作であり、山本周五郎の筆名もこれにはじまるが、作品そのものにおいて作家としての資質、初心が明確にあらわれ、その文学の原核がすでに顕在している。

この短編は大正十五年四月号の「文藝春秋」に発表された。周五郎二十三歳、関東大震災の直後、しばらく住んだ須磨での体験が素朴になっている。

周五郎が読者にあてた遺書と思われる直筆を寫し、また「須磨寺附近」の原文を抜萃して、こゝに記念とする。

弘法大師入定千百五十年御遠忌建之

文 足 立 卷 一

書 三 浦 眞 嚴

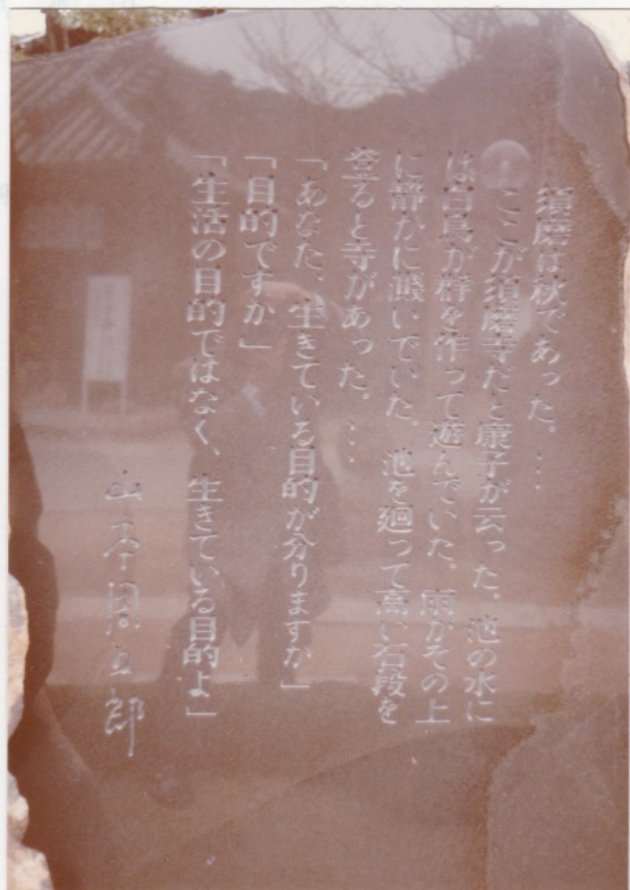
制作 速 見 史 朗

貧困と病と絶望
に沈んでゐる人たちに
ひと息の安らぎを
与へよう

尾形 朗



「尾形朗の墓」
（左側は尾形朗の墓、右側は尾形朗の墓の石碑）



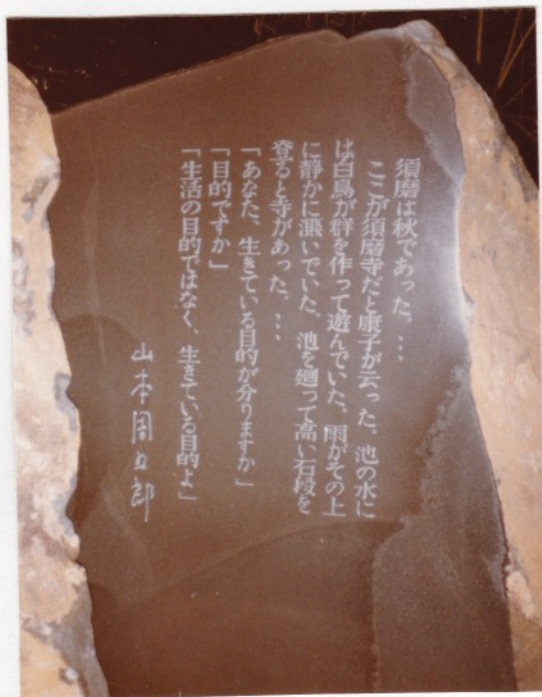
須磨は秋であった。
「ここが須磨寺だと康子が云った。池の水には白鳥が群を作つて遊んでいた。雨がその上に静かに降り注いでいた。池を廻つて高い石段を登ると寺があった。」
「あなた、生きている目的が分りますか」
「目的ですか」
「生活の目的ではなく、生きている目的よ」

尾形 朗



文 尾形朗
書 尾形朗
制作 尾形朗
述水 尾形朗
朗

文 尾形朗
書 尾形朗
制作 尾形朗
述水 尾形朗
朗



山本宣治墓碑

所在地 京都府宇治市宇治妙楽町三 善法寺墓地(宇治妙楽町三)

花屋敷山本家之墓

裏面

昭和貳年八月十日
龜松
六拾九歳逝
昭和三年十月五日
多年子
九十六才逝
昭和四年三月五日
宣治
四拾壹歳逝

この下に
二名列記
(略)

同志山本宣治の
最後の演説から

山宣ひとり孤懸
を守る
だが私は淋しくない
背後には大衆が
支持してゐるから 昭和

大山郁夫書 晋士言 河野玄主筆

略歴

山本宣治 明治三三年五月二十八日 京都市
に生まれる 東大動物学科卒 昭和四年
三月五日歿す 享年三十九歳 墓は京都府宇
治市宇治妙楽町 善法寺墓地にある



山本宣治墓碑

所在地 京都府宇治市宇治妙薬町 211 善法寺墓地(寺もなければ墓守もない)

花屋敷山本家之墓

裏面

昭和貳年八月十日 この下に
 亀 松 二名列記
 六拾九歳逝 (略)
昭和三十九年十一月二十六日
 多年子
 九十六歳逝
昭和四年三月五日
 宣 治
 四拾壹歳逝

同志山本宣治の
最後の演説から

山 宣 ひと り 孤 壘

を守る

だが私は淋しくない

背後には大衆が

支持してゐるから 昭和七年 河田乙吉

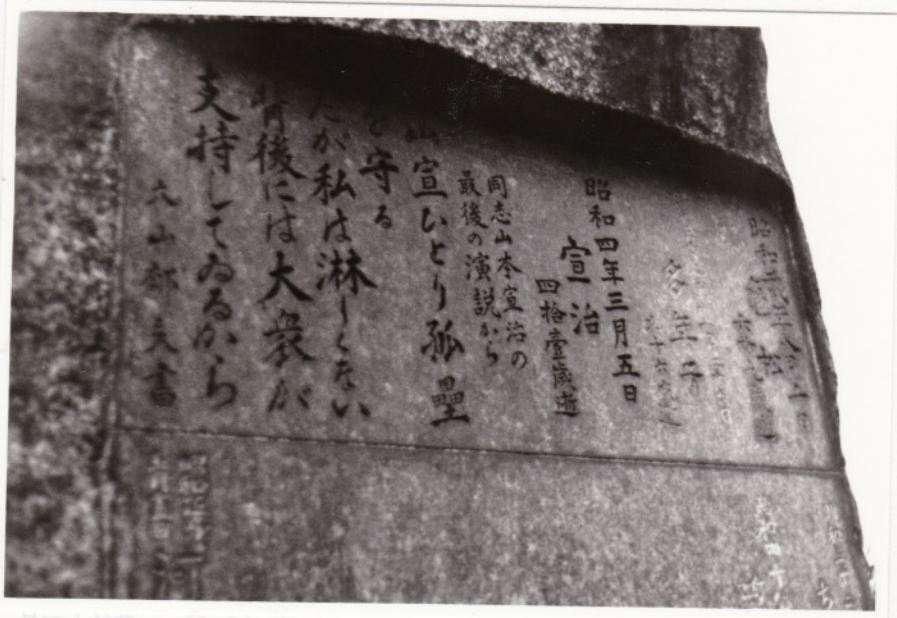
大 山 郁 夫 書 五月十三日 七十四歳

略歴

山本宣治 明治 22 年 5 月 28 日 京都市に生れる 東大動物学科卒 昭和 4 年
3 月 5 日歿す 享年 39 歳 墓は京都府宇治市宇治妙薬町 善法寺墓地にある



千手堂
第六十八
日正月三平四麻四
番二番
番為堂創興



吉田
昭和十

昭和四年三月五日
宣治
四拾壹歳迄
同志山本宣治の
最後の演説から
山宣ひとり孤聖
と守る
んが私は淋しくない
背後には大衆が
支持してゐるから
大山部大書

ファイル 70

山 本 有 三

湯 浅 半 月

湯 浅 桃 邑

結 城 哀 草 果

結 城 健 三

結 城 よ し を

湯 川 秀 樹

横 瀬 夜 雨

横 光 利 一

横 山 白 虹

横 山 芳 介

与謝野寛・晶子(北海道~群馬県)

山本有三文学碑

所在地 栃木県栃木市河合町二丁目 JR 栃木駅前

たった一人しかない自分を

たった一度しかない一生を

ほんとうに生かさなかつたら

人間生れてきたかいがないじゃないか

山本有三先生作

路傍の石より

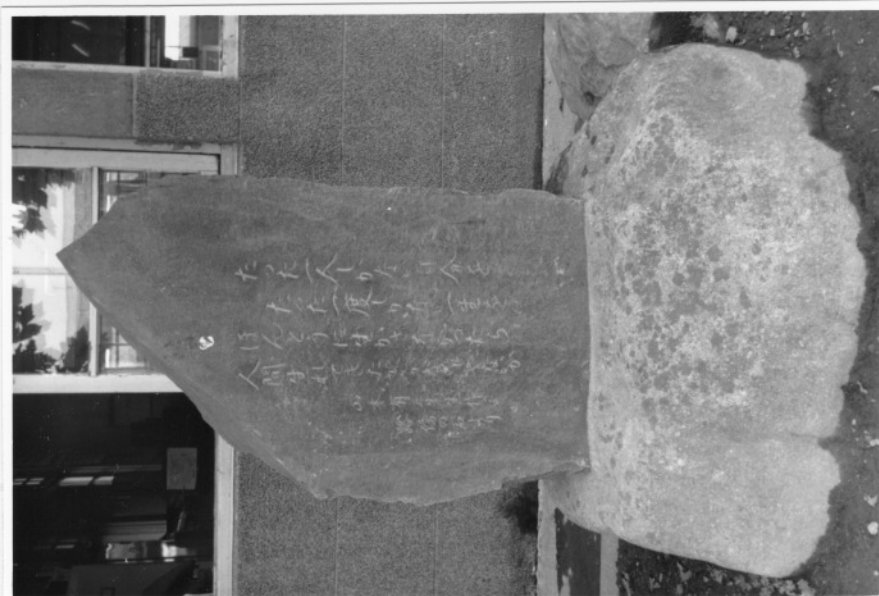
碑陰

昭和三十一年八月吉日

有志建之

略歴

山本有三 本名 勇造 明治三十年七月二十七日 栃木県下都賀郡栃木町に生まれる 東大独文科卒 昭和四十九年二月十一日歿す 享年八十六歳 法名 山本有三大居士 墓は栃木県栃木市万町三三三 近龍寺墓地にある



山本有三文学碑

所在地 栃木県栃木市河合町 1-1 JR 栃木駅前

たった一人しかない自分を

たった一度しかない一生を

ほんとうに生かさなかったら

人間生れてきたかいがないじゃないか

山本有三先生作
路傍の石より

碑陰

昭和三十八年八月吉日

有志建之

略歴

山本有三 本名 勇造 明治 20 年 7 月 27 日 栃木県下都賀郡栃木町に生れる
東大独文科卒 昭和 49 年 1 月 11 日歿す 享年 86 歳 法名 山本有三大居士
墓は栃木県栃木市万町 22-2 近龍寺墓地にある



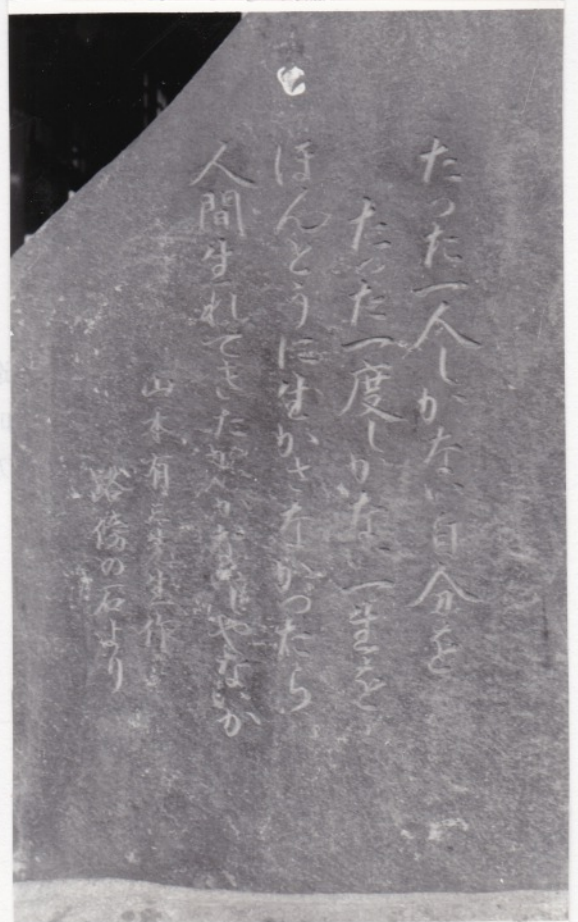
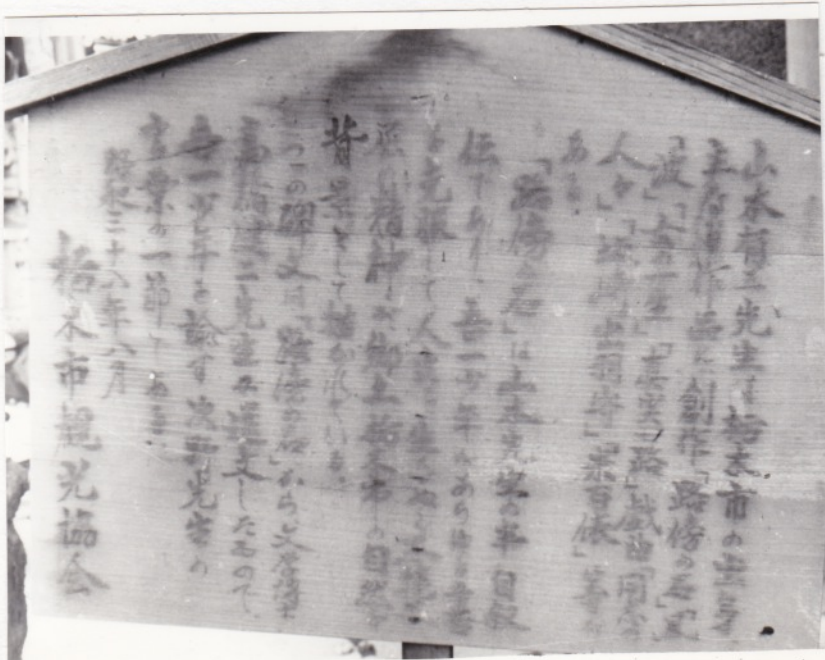
山本三郎先生の墓

新潟市野洲区

墓所

昭和三十三年八月八日

吉田 幸



たった一人しか、自分を
 たった一度しりな、一まを
 ほんとうに生かす、なかつたら
 人間生れてきた、なにか、やなか

山本有正先生作
 路傍の石より

山本有三文学碑

所在地 栃木県栃木市入舟町六八 栃木第一小学校 校庭

たつたひとりしかない
自分を、たつた一度
しかない一生を
ほんとうに生かさ
なかつたら人間、
うまれてきたかいが
ないじゃないか。

山本有三先生の路傍の石から

碑陰

昭和四十二年

七月二十八日

田波雅一樹石



山本有三文学碑

所在地 栃木県栃木市入舟町 6・8 栃木第一小学校 校庭

たったひとりしかない
自分を、たった一度
しかない 一生を
ほんとうに生かさ
なかったら 人間、
うまれてきたかいが
ないじゃないか。

山本有三先生の路傍の石から

碑陰

昭和四十二年

七月二十八日

田波雅一樹石

山本三文学輯

東京 山本三文学輯 昭和十一年八月一日 東京 山本三文学輯

山本三文学輯

山本三文学輯

山本三文学輯



山本三文学輯

山本三文学輯

山本三文学輯

山本有三詞碑

所在地 栃木県栃木市日の出町西一美 栃木市民会館 前庭

自然は

急がない

山本有三先生

寿像

レリトフ

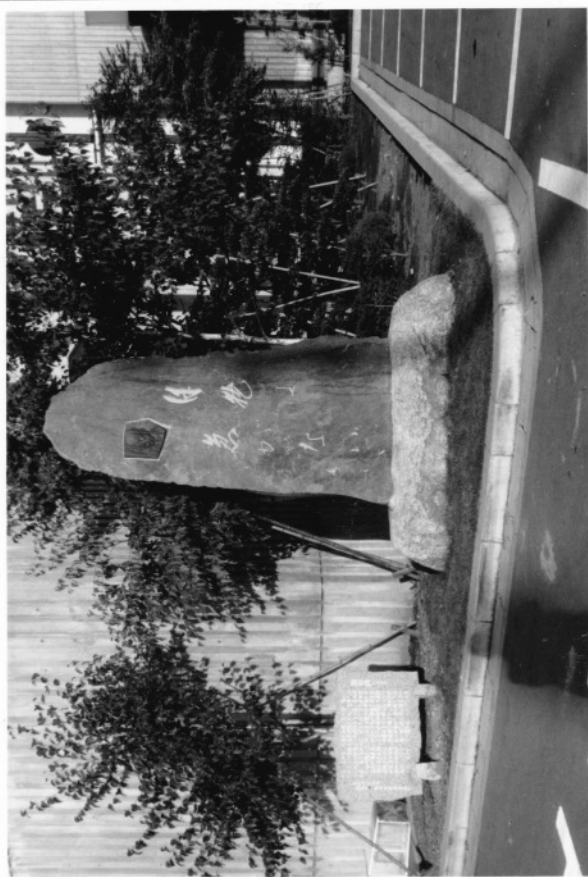
有三

碑陰

文豪山本有三先生は明治二十年（一八八七）七月二十七日栃木町今の栃木市にお生まれになった「路傍の石」「真実一路」「波」「風」その他数々の名作を通して人間尊重の理想主義を貫いたほかとりわけ戦後再建日本の文化向上のために幅広く貢献された昭和四十年（一九六五）文化勲章を授けられ晩年は湯河原に自適の日々を送り昭和四十九年（一九七四）一月十一日に亡くなられた

一九七四年五月 栃木市教育委員会 建立

石匠 金久保孝三刻



副碑

顕彰碑によせて

山本有三先生は郷土の生んだ稀有の文豪でありまた栃木名誉市民でもありますそこで早くから関係者の間に先生の遺徳をしのぶようとして顕彰碑を建設しようとの議がありましたたまたま当地で開かれた国際ロータリクラブ第三五五地区大会から多額の寄贈がありこれを基金として建設したのがこの顕彰碑であります碑銘の「自然は急がない」は数少ない先生の揮毫の中の一つで肉筆を三十倍に拡大したものでありますまた石材は先生のお住まいに近い真鶴産小松石であります

一九七四年五月

栃木市・栃木教育委員会

山本有三文学碑

所在地 栃木県栃木市日の出町 14・36 栃木市民会館 前庭

自然は

山本有三先生

急がない

寿像

レリーフ

有三

碑陰

文豪山本有三先生は明治二十年(一八八七)七月二十七日栃木町今の栃木市にお生まれになった「路傍の石」「真実一路」「波」「風」その他数々の名作を通して人間尊重の理想主義を貫いたほかとりわけ戦後再建日本の文化向上のために幅広く貢献された昭和四十年(一九六五)文化勲章を授けられ晩年は湯河原に自適の日々を送り昭和四十九年(一九七四)一月十一日に亡くなられた

一九七四年五月 栃木市教育委員会 建立
石匠 金久保孝三刻

副碑

顕彰碑によせて

山本有三先生は郷土の生んだ稀有の文豪でありまた栃木名誉市民でもありますそこで早くから関係者の間に先生の遺徳をしのぶようすがとして顕彰碑を建設しようとの議がありました

たまたま当地で開かれた国際ロータリクラブ第三五五地区大会から多額の寄贈がありこれを基金として建設したのがこの顕彰碑であります

碑銘の「自然は急がない」は数少ない先生の揮毫の中の一つで肉筆を三十倍に拡大したものであります

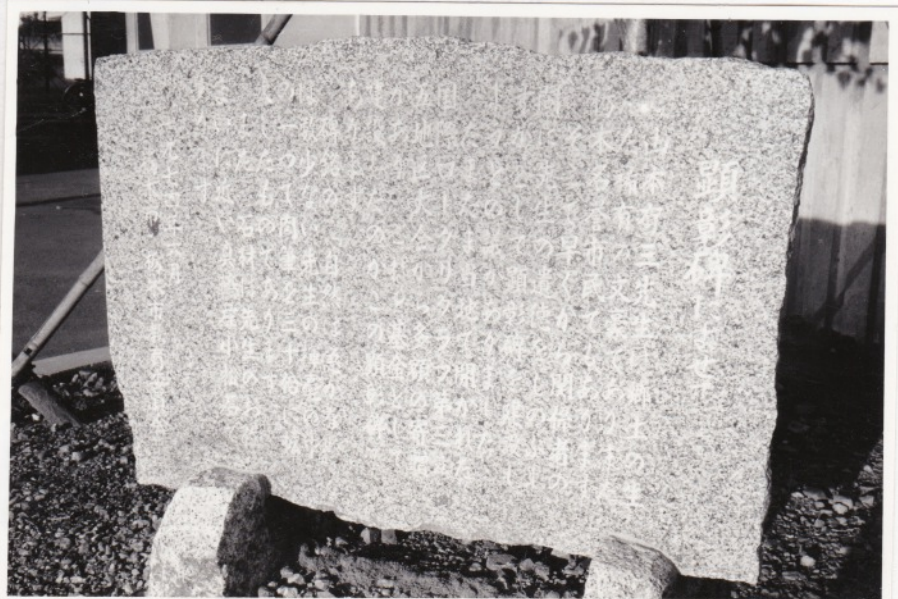
また 石材は先生のお住まいに近い真鶴産小松石であります

一九七四年六月

栃木市・栃木教育委員会



栃木市教育委員会 建立
石匠 金久保孝三刻



山本有三墓碑

所在地 栃木県栃木市万町三四 近龍寺墓地 山本有三墓

山本有三のことば

動くもの 砕けるもの の

中に動かないもの 砕け

ないものが大きくから

だに伝わってくる

右 無事の人より

友人土屋文明抄す

山

本

家

裏面

一九三七年七月六日

はな 建之
有一

(注) 墓誌碑

山本有三大居士

昭和四十九年一月十日
山本有三 八十八才



山本有三墓碑

所在地 栃木県栃木市万町 22-4 近龍寺墓地 山本有三墓

山本有三のことば

動くもの 砕けるものの 山

中に動かないもの 砕け

ないものが大きくから 本

だに伝わってくる

右 無事の人より 家

友人土屋文明抄す

裏面

一九七七年七月十八日

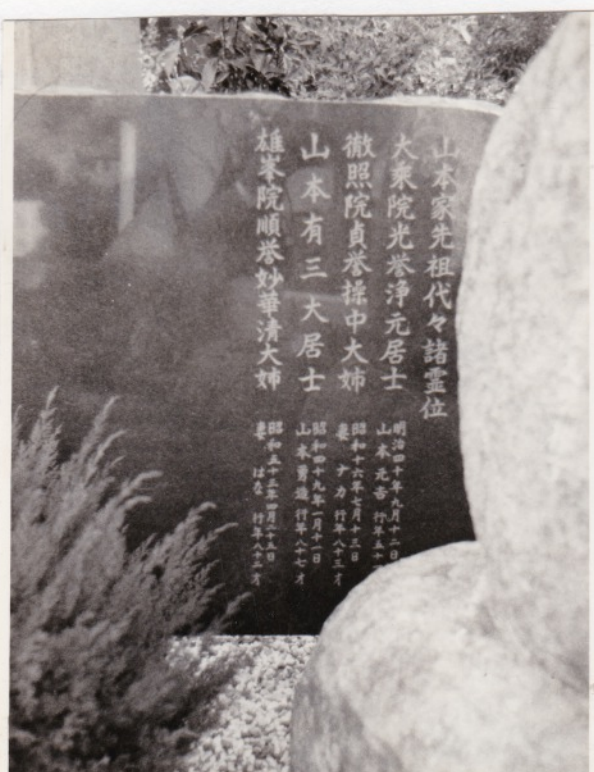
はな 建

有一 之

(注) 墓誌碑

山本有三大居士 昭和四十九年一月十一日

山本勇造 行年八十九才



山本有三文学碑

所在地 栃木県栃木市太平町 太平山公園内 頂上

山本有三先生

肖像

レリーフ

山本有三文学碑

ただひとりしかない自分を、
 たった一度しかない一生を、
 ほんとうに生かそうと思ったら、
 人間、うまれてきた かいが
 ないじゃないか。 路傍の石

碑陰

一九六三年三月

栃木市建設

選文 高橋健二

肖像 石井鶴三

鑄造 伊藤忠雄



山本有三文学碑

所在地 栃木県栃木市太平町 太平山公園 頂上

山本有三先生

寿像

レリーフ

山本有三文学碑

たったひとりしかない自分を、
たった 一度しかない 一生を、
ほんとうに生かさなかつたら、
人間、うまれてきたかいが
ないじゃないか。 路傍の石

碑陰

一九六三年三月

栃木市建設

撰文 高橋健二

寿像 石井鶴三

鑄造 伊藤忠雄



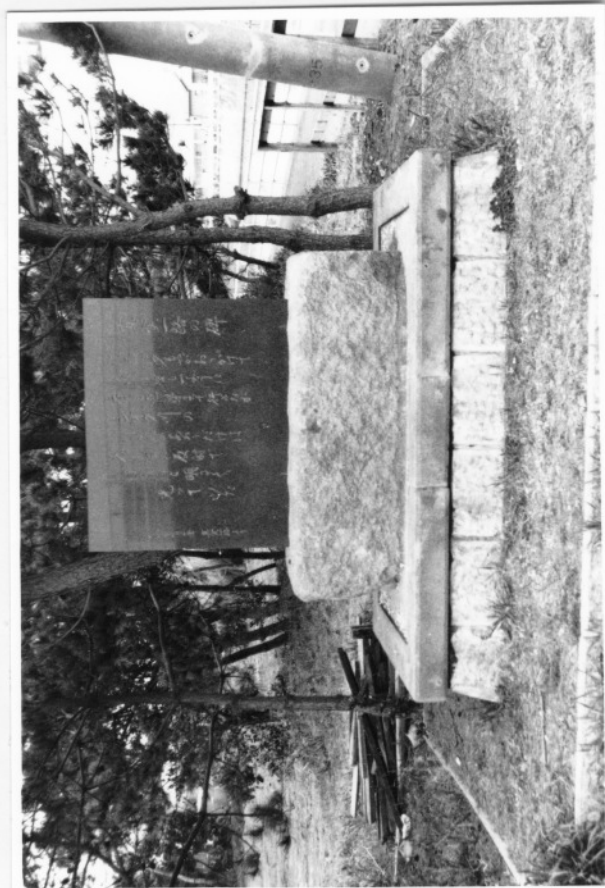
山本有三文学碑

所在地 千葉県夷隅郡大原町 塩田川 一路橋の袂

真実 一路の碑

海面に夕もやがおりかけて
水も空も一ように
ネズミ色に染まって行つたが
シオダ川の
川かみのあたりだけは
入り日の反射で
ぼうっと明るく
光っていた

山本有三著 真実 一路より



碑陰

ロータリーの
四つのテスト
省 略

大原ロータリークラブ

昭和52年5月

建立

山本有三文学碑

所在地 千葉県いすみ市大原町 塩田川 一路橋の袂

真実一路の碑

海面に夕もやがおりかけて

水も空も一ように

ネズミ色に染まって行ったが

シオダ川の

川かみのあたりだけは

入り日の反射で

ぼうっと明るく

光っていた

山本有三著 真実一路より

碑陰（横書き）

ロータリーの

四つのテスト

（省略）

大原ロータリークラブ

昭和52年5月

建立

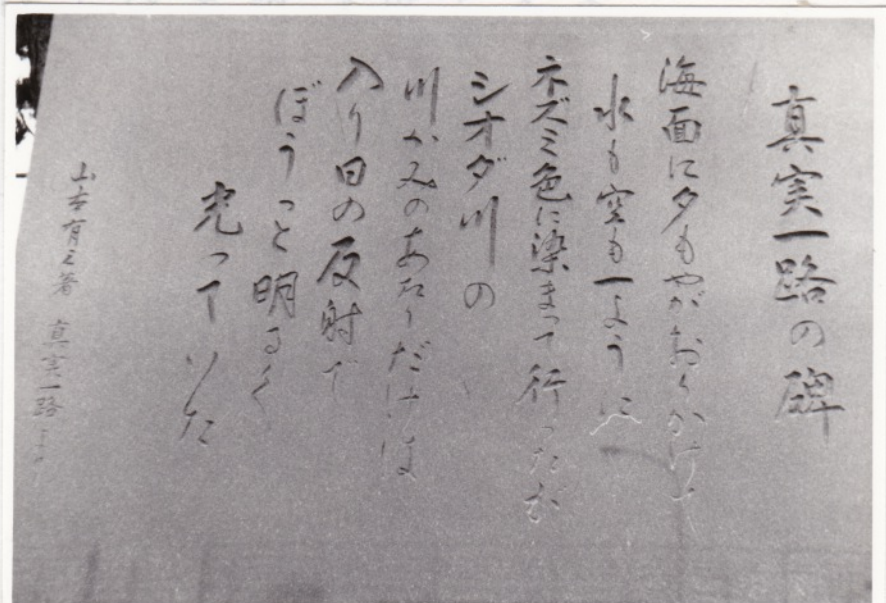


本山

真実

碑

水



真実一路の碑

海面に夕もやわらかけり

水も空も一ように

ネズミ色に染まっ行つたが

シオダ川の

川かみのあたりだけは

ハリ目の反射で

ぼうつと明るく

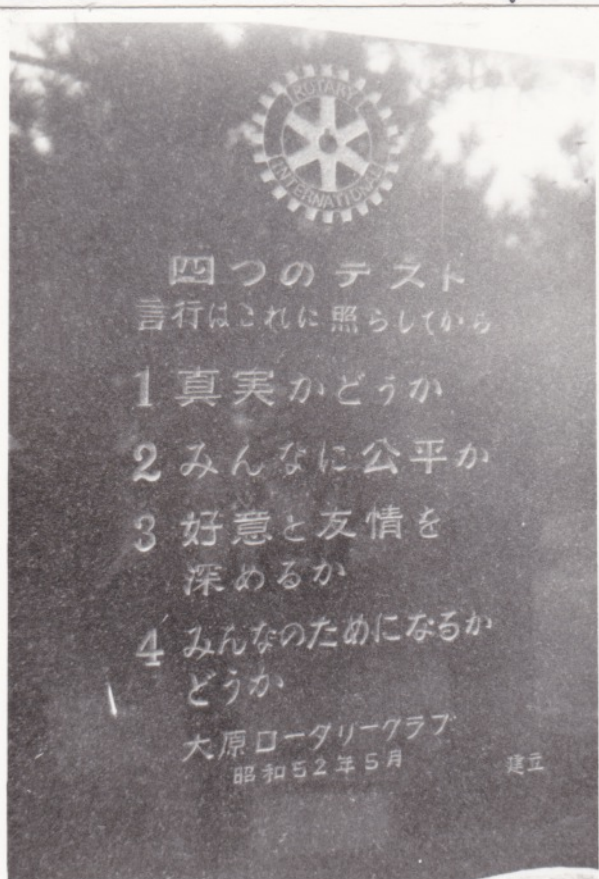
光ッイソタ

山本有之著

真実一路

碑陰

↓



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1 真実かどうか

2 みんなに公平か

3 好意と友情を
深めるか

4 みんなのためになるか
どうか

大原ロータリークラブ

昭和52年5月

建立



大原港
←

山本有三記念碑

所在地 東京都三鷹市下連雀二丁目二七 三鷹市有三青少年文庫隣

山本有三先生顕彰碑

山本有三先生
肖像

レリーフ

心に太陽を持て

土 甫

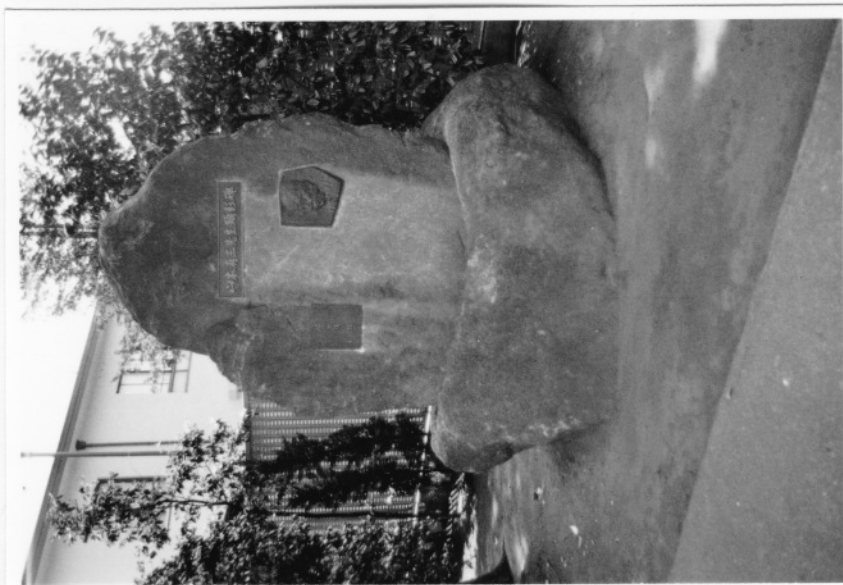
碑陰

「心に太陽を持て」は、ドイツの詩人フライシユレンの詩の冒頭の句である。高橋健二はドイツの家庭で、この詩が聖書のことばなどと共によく壁や柱にかけられているのを見て、心を引かれたので、NHKのラジオ放送で紹介した。山本有三先生もこの詩に共感し、みずから編集した「日本少年国民文庫」の第一巻をなす逸話集の巻頭にその訳をかかげただけでなくその巻の題名を「心に太陽を持て」とした。かげた異色ある書名は新鮮で充実した内容と相まって、大きな反響を呼んだ。この一句は山本文学の向日性の精神を言いあてているので、先生の好んでいたことばである。

一九七八年五月

高 橋 健 二

山本有三肖像は石井錫三作。
土甫は高橋健二先生の号。



山本有三記念碑

所在地 東京都三鷹市下連雀 2-12-27 三鷹市有三青少年文庫 庭内

山本有三先生顕彰碑 (横書き)

(この下に縦書きで下記の言葉が書かれている)

山本有三先生
寿像
レリーフ

心に太陽を持て

土 甫

碑陰

「心に太陽を持て」は、ドイツの詩人フライシュレンの詩の冒頭の句である。高橋健二はドイツの家庭で、この詩が聖書のことばなどと共によく壁や柱にかけられているのを見て、心を引かれたので、NHKのラジオ放送で紹介した。

山本有三先生もこの詩に共感し、みずから編集した「日本少国民文庫」の第一巻をなす逸話集の巻頭にその訳をかかげただけでなくその巻の題名を「心に太陽を持て」とした。

異色ある書名は新鮮で充実した内容と相まって、大きな反響を呼んだ。この一句は山本文学の向日性の精神を言いあてているので、先生の好んでいたことばである。

一九七八年五月

高 橋 健 二

山本有三肖像は石井鶴三作。

土甫は高橋健二先生の号。



南・土



山本有三詞碑

所在地 東京都三鷹市下連雀二二二七 三鷹市有三青少年文庫内

自然は

急がない

有三

碑陰

文字なし

石はふくむ

今古の色

有三



山本有三詞碑

所在地 東京都三鷹市下連雀 2-12-27 三鷹市有三青少年文庫 庭内

自然は

急がない

有三

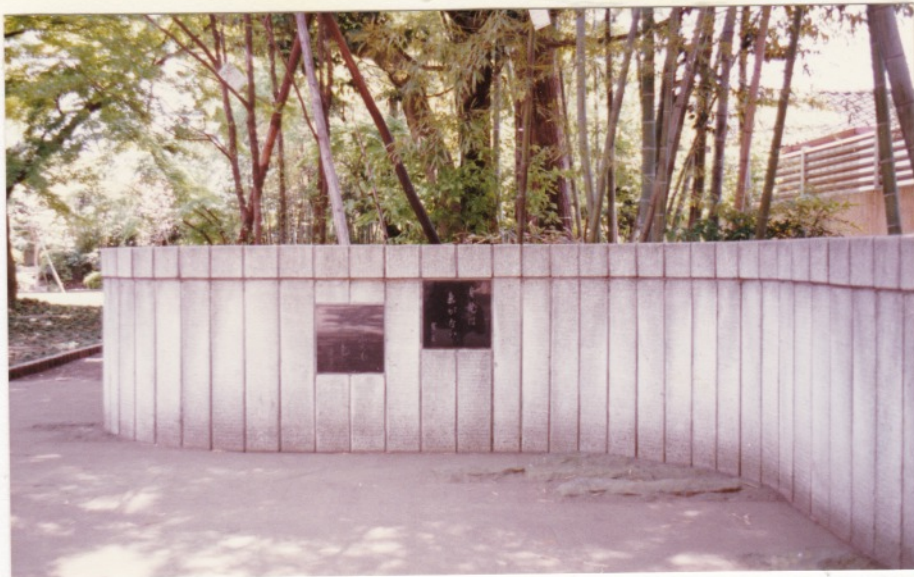
石はふくむ

今古の色

有三

碑陰

文字なし



本山

山崎



旧山本有三邸（現三鷹市有三青少年文庫）